

農村女性の生活記録

いし はら とよ み
石 原 豊 美

1. はじめに
2. データの性格
3. 各時期の特徴
 - (1) I期——昭和42年7月～43年6月——
 - (2) II期——昭和55年7月～56年6月——
 - (3) III期——平成2年7月～3年6月——
 - (4) IV期——平成7年7月～8年6月——
4. 投稿文と反響文

- (1) 家族関係と嫁の地位——文群1, I期——
 - (2) 三世代家族の家族関係——文群2, IV期——
 - (3) 嫁と姑——文群3, IV期——
 - (4) 農外就労と家計——文群4, II期——
 - (5) 労働評価と法的措置——文群5, IV期——
 - (6) 家と慣習と女性——文群6, II期——
5. 結 び

1. は じ め に

日本の農村女性に関して、社会的な関心が向けられたのはごく大雑把に捉えれば次の2つの側面においてであろう。すなわち、1つには、労働組織としての性格の濃厚な家の重圧の下にあって解放されるべき存在としてであり⁽¹⁾、もう1つは、兼業化が進み、男性労働力が多く農外就労をしたため、(高齢者と共に)農業上の役割の相対的な重要性が見直されることになったという时期的文脈においてである⁽²⁾。いずれにしても、担いがちな荷重負担からの解放が、農村女性にとっての大きな課題とされ、農村女性はそのようなものとして社会的に位置づけられたりさまざまな条件整備や施策の対象とされる。

しかし日本の社会の中で、農家は都市(へ排出する)人口の産出母体であり、食糧の生産主体でもある。また農村は守られるべき自然環境を保有する空間であり、匿名性を特徴の1つとする都市との相対的な位置づけにおいて犯罪防止などの社会的な安定化機能において評価される⁽³⁾。都市部との、また国際的な、物的人的交流が進められ、女性農業者らはこうした中で生活圏を形成している⁽⁴⁾。

一体農村女性は、生活上の関心領域や生活価値観をどのようなものとして形成しているだろうか。

本稿では、利用可能ないくつかの方法の中で、日本農業新聞という1つのメディアにあてた農村女性らの短い文を用い、これの分析によって女性たちの関心領域について検討する⁽⁵⁾。

最初に掲載文のデータとしての性格について検討し(第2節「データの性格」)、次に4つの定点観測の要領で文の特徴を把握する(第3節「各時期の特徴」)。さらに、(家族を主題とする)反響文群を伴う投稿文について取り上げてその内容について検討する(第4節「投稿文と反響文」)。それらを踏まえて、農村の女性の意識と生活上の課題に関して導出される結論を要約的に述べる(第5節「結び」)。

注(1) 参照されるべき文献として、福武〔10, 第2章〕及び福武〔11, 第2章〕が挙げられる。戦前に発表された丸岡秀子〔23〕が、農村婦人問題を社会的な水準で扱った最初の著作である。氏は、長野県を中心として多くの農村婦人たちの生活記録運動の指導者ともなった。

(2) 昭和30年代後半以降のこととしてよい。田代〔47〕、須永〔45〕などに詳しい。他に、東北地方の農民の出稼ぎによって残された妻たちの

嘆きを謳った草野比佐男の詩集〔21〕が参照される。また、その後の女性たちの農外就労の様相については、並木編〔34〕がよく描き出している。

- (3) この点に関して、明石〔1〕、矢部〔52〕を参照。
- (4) 一例として、関東農政局が1989年に管内の食料品消費モニターを対象として実施した調査の自由回答欄——「婦人が能力を十分に発揮し、」「中心となって活躍するために」何が必要かの問いに対する——によれば、繰り返し用いられる言葉は、「交流」(59回)と「意見交換」(17回)であった。また、山村留学への参加者(父母)と2つのコントロールグループを対象として、参加父母が農山村の自然環境保全に高い関心をもつことを示した矢部〔53〕が参考になる。
- (5) 農村女性の集合的な性格を帯びた生活記録として、他に、毎日農業記録賞(入賞作品が毎日新聞社〔22〕として出版されている)、地域的なものであるが、千屋農協婦人部の編集した記録(集大成版が、千屋農協婦人部〔43〕としてまとめられている)、また個人の生活記録として一条ふみ〔16〕、個人史 Wimschneider, A〔51〕などが参照される。先行的な研究の例としては、1962年に読売新聞に掲載された身上相談を素材とした見田〔27、第I部〕を看過することができない。

2. データの性格

本稿でデータとして用いる日本農業新聞のコラム「女の階段」は、昭和42年7月に農家の主婦の交流の機会を創出するために設けられたコラムであり、現在までに多数の掲載文が蓄積されている⁽¹⁾。

本稿では、同コラムが設けられた最初の1年間——昭和42年7月～43年6月——と、13年後の1年間——昭和55年7月～56年6月——、それからさらに10年を経た1年間——平成2年7月～3年6月——及び最近の1年間——平成7年7月～8年6月——の掲載文の内容を検討対象とする。(以下、各時期

をⅠ～Ⅳ期と略記する。)

これらのデータの基本的な性格について略記する。

掲載文数はⅠ期に126、Ⅱ期に290、Ⅲ期に352、Ⅳ期に348である⁽²⁾。Ⅲ期以降には殆ど毎日投稿文が掲載されている。これらの掲載文について記名の有無をみると、Ⅰ～Ⅳ期を通じて記名のある投稿が多く、匿名を希望する投稿文が最も多いⅣ期においても、この割合は9.5%にすぎない。また、投稿者は、Ⅰ～Ⅳ期を通じて関東・東山地域が多い。

第1表に、年齢階層別投稿者数を示す。Ⅰ～Ⅳ期で、投稿者数の多い年齢層が異なっており、時期を下るにつれて高年齢となっている。Ⅰ期では、30歳代が最も多く、39.7%を占める。次は20歳代と40歳代で、共に20.6%を占める。Ⅱ期では、40歳代が最も多く、25.9%を占める。次は50歳代で24.1%を占め、30歳代がこれに続く(19.3%)。Ⅲ期では60歳代が最も多く、21.3%を占める。次は50歳代で18.5%を占め、40歳代がこれに続く(17.6%)。Ⅳ期にも60歳代が最も多く、24.1%を占める。次は50歳代で19.5%を占め、40歳代がこれに次ぐ(18.4%)。

第2表に主題別掲載文数を示す。

概観すると、Ⅰ～Ⅳ期を通じて、家族に関する記述が最も多くなされている。

時期別の特徴は次の通りである。すなわち、Ⅰ期には、家族に関する記述が最も多く(46.8%)、次に農業や生活史に関する記述がそれぞれ37.3%及び35.7%を占める。他に、人生観を述べた掲載文がまとまって見受けられる(27.8%)。Ⅱ期においても家族に関する記述が最も多く(37.9%)、次は農業に関する記述で27.9%を占める。他に、学習活動を主題(の1つ)とする記述がまとまって見受けられる(16.9%)。Ⅲ期においても、家族を扱った記述が最も多い(30.7%)。また、農業を主題とする記述が次に多く(27.8%)、学習活動についての記述がⅡ期と同様まとまって

第1表 年齢階層別投稿者数

	I 期	II 期	III 期	IV 期
	人			
	%			
計	126 (100.0)	290 (100.0)	352 (100.0)	348 (100.0)
10 歳代	3 (2.4)	(—)	(—)	(—)
20 歳代	26 (20.6)	13 (4.5)	10 (2.8)	5 (1.4)
30 歳代	50 (39.7)	56 (19.3)	40 (11.4)	26 (7.5)
40 歳代	26 (20.6)	75 (25.9)	62 (17.6)	64 (18.4)
50 歳代	13 (10.3)	70 (24.1)	65 (18.5)	68 (19.5)
60 歳代	2 (1.6)	32 (11.0)	75 (21.3)	84 (24.1)
70 歳代	(—)	4 (1.4)	8 (2.3)	21 (6.0)
80 歳代	(—)	(—)	3 (0.9)	5 (1.4)
不 明	6 (4.8)	40 (13.8)	89 (25.3)	75 (21.6)

資料：「女の階段」I～IV期より作成。第2表以下も同様である。

第2表 主題別掲載文数

	I 期	II 期	III 期	IV 期
	%			
自然、環境、気象	6 (4.8)	33 (11.4)	29 (8.3)	12 (3.4)
農 業	47 (37.3)	81 (27.9)	98 (27.8)	60 (17.2)
農業以外の仕事、家事	6 (4.8)	19 (6.6)	12 (3.4)	3 (0.9)
衣生活	1 (0.8)	5 (1.7)	2 (0.6)	1 (0.3)
食生活	6 (4.8)	19 (6.6)	26 (7.4)	15 (4.3)
住 居	2 (1.6)	2 (0.7)	2 (0.6)	1 (0.3)
家族、家族関係	59 (46.8)	109 (37.9)	108 (30.7)	107 (30.7)
近隣関係	2 (1.6)	1 (0.3)	3 (0.9)	1 (0.3)
親族、親戚関係	4 (3.2)	19 (6.6)	38 (10.8)	19 (5.5)
知人、友人	2 (1.6)	15 (5.2)	21 (6.0)	23 (6.6)
恩 人	(—)	8 (2.8)	5 (1.4)	5 (1.4)
健 康	2 (1.6)	5 (1.7)	3 (0.9)	7 (2.0)
病気、事故	10 (7.9)	26 (9.0)	35 (9.9)	34 (9.8)
生活史、生活段階	45 (35.7)	17 (5.9)	37 (10.5)	42 (12.1)
人生観、価値観	35 (27.8)	21 (7.2)	46 (13.1)	46 (13.2)
余暇、休養	16 (12.7)	18 (6.2)	48 (13.6)	48 (13.8)
趣味、ボランティア	5 (4.0)	25 (8.6)	13 (3.7)	29 (8.3)
学習、文化	12 (9.5)	49 (16.9)	58 (16.5)	31 (8.9)
グループ・組織活動	3 (2.4)	22 (7.6)	29 (8.2)	27 (7.7)
生活水準	1 (0.8)	6 (2.1)	2 (0.6)	(—)
経済、政治、社会	2 (1.6)	21 (7.2)	11 (3.1)	17 (4.9)
伝統、慣習、地域	(—)	11 (3.8)	29 (8.2)	15 (4.3)
儀礼、宗教	6 (4.8)	15 (5.2)	19 (5.4)	17 (4.9)
その他	(—)	2 (0.7)	30 (8.5)	16 (4.6)

注. 主題は複数にコードした。

見受けられる (16.5%)。Ⅳ期には、家族に関する記述が最も多く (30.7%)、農業に関する記述が次に多い (17.2%)。他に、余暇、人生観及び生活史を扱った記述がいくつかまとまって見受けられる (それぞれ 13.8%, 13.2%及び 12.1%)。

第3表に記述のスタイル別掲載文数を示す。

Ⅰ期には近況の報告をする文が最も多く (34.1%)、記述を自己目的とした文 (22.2%) や抱負や心情を記述した文 (20.6%) がこれに次ぐ。Ⅱ期には記述を自己目的とした文が最も多い (36.2%)。近況の報告をする文がこれに次ぎ (31.4%)、感慨及び意見、感想を記述した文もまとめて見受けられる (それぞれ 21.4%と 19.3%)。Ⅲ期には、記述を自己目的とした文が最も多く (66.8%)、次に感慨を述べた文が 22.2% を占める。Ⅳ期には感慨を述べた文が最も多く (32.5%)、次に記述を自己目的とする文が 29.6% を占める。

以上の他に、回顧的なスタイルを含む掲載文がⅠ～Ⅳ期を通じて 10% を超えて多く、注目される。また、訴え、励まし、呼びかけのスタイルをとる文は、Ⅰ～Ⅳ期を通じて少ない。

また、パーソナル—インパーソナルという尺度から記述のスタイルをみると、Ⅰ期にはパーソナルな性格の文が非常に多く (67.5%)、Ⅱ期とⅣ期についても同様である (それぞれ 51.7% 及び 48.3%)。が、Ⅲ期には中間的な性格の文が最も多い (54.0%)。

なお、肯定的—否定的という尺度から記述のスタイルを捉えれば、Ⅰ～Ⅳ期を通じて中立的な記述の文が最も多く (55.6%, 55.2%, 64.5% 及び 46.3%)、肯定的な記述のスタイルの文がこれに次ぐ。記述のスタイルが否定的な文は少なく、特にⅢ期には 1 割に満たない。

第4表に掲載文がカヴァーしている時間の領域別掲載文数を示す。

第3表 記述のスタイル別掲載文数

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
記述のスタイル(1)	%			
記述、記録	28 (22.2)	105 (36.2)	235 (66.8)	103 (29.6)
感動、感謝、感慨	21 (16.7)	62 (21.4)	78 (22.2)	113 (32.5)
訴え、相談	8 (6.3)	9 (3.1)	9 (2.6)	24 (6.9)
励まし	5 (4.0)	5 (1.7)	(—)	10 (2.9)
近況の報告	43 (34.1)	91 (31.4)	42 (11.9)	60 (17.2)
呼びかけ、紹介	4 (3.2)	17 (5.9)	10 (2.8)	17 (4.9)
提案、意見、感想	7 (5.6)	56 (19.3)	53 (15.1)	55 (15.8)
抱負、展望、心情	26 (20.6)	25 (8.6)	37 (10.5)	25 (7.2)
想起、回顧	20 (15.9)	32 (11.0)	37 (10.5)	42 (12.1)
その他	1 (0.8)	3 (1.0)	5 (1.4)	5 (1.4)
記述のスタイル(2)	%			
パーソナル	85 (67.5)	150 (51.7)	111 (31.5)	168 (48.3)
中 間	36 (28.6)	103 (35.5)	190 (54.0)	117 (33.6)
インパーソナル	5 (4.0)	37 (12.8)	51 (14.5)	63 (18.1)
記述のスタイル(3)	%			
肯定的	38 (30.2)	92 (31.7)	92 (26.1)	131 (37.6)
中 立	70 (55.6)	160 (55.2)	227 (64.5)	161 (46.3)
否定的	18 (14.3)	38 (13.1)	33 (9.4)	56 (16.1)

注. 記述のスタイル(1)は、複数にコードした。

I期とII期には、現在のことを述べた文が非常に多い（それぞれ73.0%，74.1%）。III期には現在及び過去の一時点について述べた文が多い（それぞれ59.9%，48.6%）。IV期には、現在及び過去の一時点について述べた文、またカヴァーする時間の領域が不定である文が多い（39.4%，35.3%及び32.2%）。他に過去の一定期間をカヴァーした文がI期、III期及びIV期に2割を超えており、注目される。

第5表に記述者の準拠枠別掲載文数を示す。これによれば、投稿者が最も多く準拠し

ているのは、I～III期には酪農業者としての立場である（それぞれ34.9%，35.2%及び35.5%）。I期には他に主婦、母親、女性及び農家の一成員として記述した投稿文が多い。II期には、他に、主婦及び農家の成員として記述した投稿文がまとまって見受けられる。III期には他に主婦、農家の一成員及び世代の一員として記述した文が多い。IV期の投稿文は記述者の立場が多様で、2割を超えるのは主婦としての記述した文である（20.4%）。

第4表 カヴァーしている時間の領域別掲載文数

	I期	II期	III期	IV期
	%			
現在	92 (73.0)	215 (74.1)	211 (59.9)	137 (39.4)
過去の一時点	16 (8.9)	58 (20.0)	171 (48.6)	123 (35.3)
過去の一定期間	42 (23.3)	45 (15.5)	74 (21.0)	74 (21.3)
将来	3 (1.7)	5 (1.7)	7 (2.0)	4 (1.1)
不定・その他	27 (15.0)	52 (17.9)	56 (15.9)	112 (32.2)

注. 時間の領域は複数にコードした。

第5表 記述者の準拠枠別掲載文数

	I期	II期	III期	IV期
	%			
主婦	35 (27.8)	94 (32.4)	90 (25.6)	71 (20.4)
嫁	21 (16.7)	14 (4.8)	15 (4.3)	35 (10.1)
母親	29 (23.0)	56 (19.3)	54 (15.3)	34 (9.8)
祖母	(—)	7 (2.4)	12 (3.4)	9 (2.6)
配偶者	9 (7.1)	8 (2.8)	7 (2.0)	14 (4.0)
農家の成員	27 (21.4)	89 (30.7)	84 (23.9)	43 (12.4)
農村居住者	4 (3.2)	28 (9.7)	36 (10.2)	19 (5.5)
世代・時代	9 (7.1)	17 (5.9)	71 (20.2)	49 (14.1)
家	1 (0.8)	7 (2.4)	17 (4.8)	7 (2.0)
村	2 (1.6)	(—)	(—)	1 (0.3)
グループ	3 (2.4)	39 (13.4)	36 (10.2)	47 (13.5)
組織・学校	3 (2.4)	2 (0.7)	15 (4.3)	13 (3.7)
酪農業者	44 (34.9)	102 (35.2)	125 (35.5)	68 (19.5)
女性	28 (22.2)	44 (15.2)	68 (19.3)	59 (17.0)
その他・不明	8 (6.3)	29 (10.0)	41 (11.6)	72 (20.7)

注. 記述者の準拠枠は複数にコードした。

注(1) コラムは、新聞社の文化部次長が東京都内で開催されている女性の集会に出向き、参加している農家主婦からのインタビューによって記事を作成したところから始まる。当時流行した東宝映画「女が階段を上る時」からとって、コラムの題を「女の階段」とした。

現在までに、コラム開設 12 周年を記念して日本農業新聞〔35〕が、また 20 周年を記念して日本農業新聞〔36〕が、刊行されている。

- (2) 掲載文について、投稿文と、投稿文の内容に意見や異なる考え方などを寄せた反響文を、後に区別する。反響文は少数であり、構成比において 1 割を超えるのはⅠ期とⅣ期のみである。下の附表 1 を参照。

附表 1 投稿文と反響文

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
	%			
計	126(100.0)	290(100.0)	352(100.0)	348(100.0)
投稿文	111(88.1)	268(92.4)	351(99.7)	307(88.2)
反響文	15(11.9)	21(7.2)	1(0.3)	41(11.8)
不明	(—)	1(0.4)	(—)	(—)

資料：「女の階段」Ⅰ～Ⅳ期より作成。

3. 各時期の特徴

(1) Ⅰ期——昭和 42 年 7 月～43 年 6 月——

Ⅰ期は、コラムが設けられた最初の 1 年間である。婦人労働の合理化などによる農業従事者の福祉の向上や家族農業経営の近代化と育成に関する条文（それぞれ第二条第八項及び第十五条）を含む農業基本法が制定されてから約 6 年後にあたる。この頃までに、いくつかの新聞が女性投稿欄を設けており、日本農業新聞もまた、「女の階段」を設ける準備を集会で参加者からのインタビューをとるところから始めたという。

このコラムが設けられて数年以内に、コラムに文が掲載されるだけでなく、女性たちによるたくさんの地域グループが結成されているが、Ⅰ期には、126 の文の掲載があったに

すぎない。全体として、この時期の掲載文が、家族と農業、また生活史及び人生観を多く課題としていることについて既に述べた。本項では、投稿者の年齢構成や居住地域との関係で、また記述上の（他の）特徴との関係で、どのような記述がなされているかについて概観する。（次項以下、Ⅱ～Ⅳ期についても同様である。）

第 6 表に投稿者の年齢階層別に掲載文の主題を示す。30 歳代の投稿者で家族及び生活史また農業について記述した例が顕著である。40 歳代や 20 歳代でも家族と農業と生活史に関する記述が多い。（それぞれ 1 位、2 位、3 位及び 1 位、3 位、2 位の順である。）

第 7 表に投稿者の居住地域別に掲載文の主題を示す。投稿者の居住地域による扱う主題の顕著な特徴はないが、投稿者の最も多い関東・東山地域で、家族や生活史や人生観、また農業を主題に含む投稿文が多い。

第 8 表に、記述のスタイル別に掲載文の主題を示す。近況の報告のスタイルをとった農業及び家族に関する投稿文が最も多く（それぞれ 22 例）、同じスタイルで生活史を主題（の 1 つ）とする投稿文も多い（14 例）。他に、記述を自己目的とした農業に関する投稿文が 12 例、抱負や心情を述べた家族、農業及び生活史を主題とする投稿文がそれぞれ 15 例、13 例及び 13 例見受けられる。

第 9 表に記述者の準拠枠と主題の連関を示す。最も多いのが酪農業者として農業について記述した投稿文であり（34 例）、同じ立場から、家族や生活史を主題（の 1 つ）とした例がそれぞれ 23 例及び 18 例、他に、母親としての立場から家族を扱った文を投稿した例が 23 例見受けられる。

以下にⅠ期にコラムに掲載された若干の文例を示す。第 10 表に示されたように、Ⅰ期の掲載文には家族や生活史を主題とするパーソナルな性格を帯びた掲載文がまとまって見受けられる（それぞれ 47 例及び 36 例）。また第

第6表 年齢階層と主題 (1)

	計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	不 明
計	272	6	51	113	58	28	5	11
自然, 環境, 気象	6		3	2	1			
農 業	47	1	9	18	12	5		2
農業以外の仕事, 家事	6			3	2	1		
衣生活	1			1				
食生活	6			1	1	1		3
住 居	2		1	1				
家族, 家族関係	59		11	26	13	4	1	4
近隣関係	2			2				
親族, 親戚関係	4		1	2				1
知人, 友人	2			1		1		
健 康	2		1	1				
病気, 事故	10		1	5	3	1		
生活史, 生活段階	45	1	11	19	10	3	1	
人生観, 価値観	35	3	8	12	5	6	1	
余暇, 休養	16		3	8	3		1	1
趣味, ボランティア	5		1	1	1	2		
学習, 文化	12		1	6	1	3	1	
グループ・組織活動	3	1		1	1			
生活水準	1				1			
経済, 政治, 社会	2				1	1		
儀礼, 宗教	6			3	3			

資料:「女の階段」1期より作成。第7表以下も同様である。

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 70歳代及び80歳代については、これと明記された投稿者による掲載文はなかった。

(3) 恩人と伝統, 慣習, 地域については、これを主題とする掲載文がなかった。

第7表 居住地域と主題 (1)

	計	北海道	東北 地域	北陸 地域	関東・ 東山 地域	東海 地域	近畿 地域	中国 地域	四国 地域	九州 地域	不 明
計	272	19	24	9	64	34	7	39	27	47	2
自然, 環境, 気象	6	1	1		1	1		1	1		
農 業	47	4	5	2	8	4	2	5	5	11	1
農業以外の仕事, 家事	6	1		1	1				2	1	
衣生活	1					1					
食生活	6				1	2		3			
住 居	2									2	
家族, 家族関係	59	4	5	2	14	9	1	8	6	9	1
近隣関係	2		1		1						
親族, 親戚関係	4				1	1		2			
知人, 友人	2				1				1		
健 康	2					1				1	
病気, 事故	10				4	1				2	
生活史, 生活段階	45	5		3	10	7	2	6	3	9	
人生観, 価値観	35	2	3	1	10	4	1	5	4	5	
余暇, 休養	16	1	2		5	1	1	3	2	1	
趣味, ボランティア	5		2		1					2	
学習, 文化	12		2		2	1		2	2	3	
グループ・組織活動	3		2						1		
生活水準	1									1	
経済, 政治, 社会	2				1	1					
儀礼, 宗教	6	1	1		3			1			

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 恩人と伝統, 慣習, 地域については、これを主題とする掲載文がなかった。

第8表 記述のスタイルと主題 (1)-1

	計	記述、 記録	感動、 感謝、 感慨	訴え、 相談	励まし	近 の 報 告	況 の 告	呼び かけ、 紹介	提案、 意見、 感想	抱負、 展望、 心情	想起、 回顧	その他
計	354	54	45	20	9	98		6	17	59	45	1
自然、環境、気象	7	3	1			2				1		
農 業	61	12	5			22			2	13	7	
農業以外の仕事、家事	7	2				4					1	
衣生活	2									1	1	
食生活	7	3		1		2		1				
住 居	4		2			1					1	
家族、家族関係	80	6	8	8	3	22		1	5	15	12	
近隣関係	2					1		1				
親族、親戚関係	4	2				1					1	
知人、友人	3		1								1	
健 康	2					1				1		
病気、事故	15	2	1	2	1	3				3	3	
生活史、生活段階	61	6	9	4	1	14			3	13	11	
人生観、価値観	45	4	4	4	4	9			5	8	6	1
余暇、休養	18	5	6			5				2		
趣味、ボランティア	6	3				3						
学習、文化	15	2	4			7		1		1		
グループ・組織活動	4	1	1					1	1			
生活水準	1								1			
経済、政治、社会	3	1		1							1	
儀礼、宗教	7	2	3			1		1				

注(1) 記述のスタイル、主題とも複数にコードした。

(2) 恩人と伝統、慣習、地域については、これを主題とする掲載文がなかった。

第9表 記述者の準拠枠と主題 (1)

	計	主 婦	嫁 親	母 親	配 偶 者	農 家 の 成 員	農 村 居 住 者	世 代 ・ 時 代	家	村	グ ル ー プ	組 織 ・ 学 校	酪 農 業 者	女 性	そ の 他
計	501	77	47	67	23	62	8	23	2	3	5	6	100	59	19
自然、環境、気象	7	1				1							5		
農 業	97	13	7	8	3	15	2	1			2	2	34	7	3
農業以外の仕事、家事	11	3		1	1	3							1	1	1
衣生活	2		1										1		
食生活	10	6	1			2					1				
住 居	4	2				2									
家族、家族関係	116	14	14	23	8	16		3	1	1			23	10	3
近隣関係	3	1			1		1								
親族、親戚関係	5	1	1										1		2
知人、友人	3							1						2	
健 康	3		1	1										1	
病気、事故	14	1	2	4	2								2	3	
生活史、生活段階	94	13	10	15	4	16		3					18	12	3
人生観、価値観	56	6	8	4	3	5	2	3				1	10	10	3
余暇、休養	28	4	1	4		1		5	1	1			3	6	2
趣味、ボランティア	7	2						1						2	2
学習、文化	21	5	1	2			1	5			1	1	1	4	
グループ・組織活動	7	1					1	1			1	2	1		
生活水準	2	1				1									
経済、政治、社会	3	1		1										1	
儀礼、宗教	8	2		4	1		1								

注(1) 準拠枠、主題とも複数にコードした。

(2) 恩人と伝統、慣習、地域については、これを主題とする掲載文がなかった。

第 10 表 記述のスタイルと主題 (1)-2

	計	パーソナル	中 間	インパーソナル
計	272	188	75	9
自然、環境、気象	6	3	3	
農 業	47	29	17	1
農業以外の仕事、家事	6	1	5	
衣生活	1		1	
食生活	6	3	2	1
住 居	2	2		
家族、家族関係	59	47	12	
近隣関係	2		1	1
親族、親戚関係	4	2	2	
知人、友人	2	2		
健 康	2	2		1
病気、事故	10	10		
生活史、生活段階	45	36	9	
人生観、価値観	35	26	8	1
余暇、休養	16	10	4	2
趣味、ボランティア	5	2	2	1
学習、文化	12	8	4	
グループ・組織活動	3		2	1
生活水準	1	1		
経済、政治、社会	2	1	1	
儀礼、宗教	6	3	2	1

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 恩人と伝統、慣習、地域については、これを主題とする掲載文がなかった。

11 表に示されたように、I 期の掲載文の中では家族を主題とした中間的な性格の掲載文が最多である (35 例)。なお、第 12 表は、I 期の掲載文には家族、農業、生活史について現在を中心として記述した文が多い (それぞれ 47 例、37 例及び 36 例) ことを示している⁽¹⁾。

文例 I-a

静岡県農家の主婦が書いた次の投稿文は、ミカンを中心とする農業経営への切り換えが軌道に乗るまでの経緯を記述している。成園になるまでの期間、経済的に恵まれなかったこと、また見通しが得られる頃には既に好景気も終わっていたことを述べている。

ミカン園六十アール、茶園五十アール、水田三十五アール、これがわが家の主体作物です。こうして並べてみると私たちの部落としてはそんなに小さい方ではないのだが、耕地面積の割^ミりには収入は少ない。というのは未成園のミカ

ン園ばかりであるからです。生産費こそかかって収入はゼロ。肥料代、消毒代はそのまま赤字となって残るのです。

(中略)

これではしょうがないと、乳牛を飼うことにしました。

(中略)

お陰でこの二、三年は土質も見ちがえるようになり、春芽、夏芽とぐんぐん伸び出しました。(略)

……もうミカンブームは終わりました。(略) この一年、肥料かけ、消毒、除草と汗を流したミカンが、秋が深まるにつれて、一だんと大きくなる様子をみていると、仕事の苦しさも、経済的な苦しみも忘れて楽しい気持ちになってきます。

記名あり、30 歳 (静岡県)、昭和 42 年 11 月 3 日

第11表 記述のスタイルと主題 (1)-3

	計	肯定的, 積極的	中 間, 中立的	否定的, 問題 として認知
計	126	38	70	18
自然, 環境, 気象	6	1	4	1
農 業	47	16	27	4
農業以外の仕事, 家事	6	3	3	
衣生活	1	1		
食生活	6		5	1
住 居	2		2	
家族, 家族関係	59	12	35	12
近隣関係	2	1	1	
親族, 親戚関係	4		4	
知人, 友人	2		1	1
健 康	2	1		1
病気, 事故	10	1	4	5
生活史, 生活段階	45	12	28	5
人生観, 価値観	35	10	17	8
余暇, 休養	16	8	8	
趣味, ボランティア	5		5	
学習, 文化	12	5	7	
グループ・組織活動	3	1	1	1
生活水準	1		1	
経済, 政治, 社会	2			2
儀礼, 宗教	6	2	4	

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 恩人と伝統, 慣習, 地域については, これを主題とする掲載文がなかった。

第12表 時間の領域と主題 (1)

	計	現 在	過去の 一時点	過 去 の 一定期間	将 来	不 定・ その他
計	400	201	33	102	8	56
自然, 環境, 気象	7	5	1	1		
農 業	72	37	4	21	1	9
農業以外の仕事, 家事	6	5	1			
衣生活	2	1		1		
食生活	8	4				4
住 居	4	2		2		
家族, 家族関係	91	47	5	26	2	11
近隣関係	3	2		1		1
親族, 親戚関係	6		3	1		2
知人, 友人	2		1			1
健 康	3	1		2		
病気, 事故	14	7	3	4		
生活史, 生活段階	75	36	3	26	2	8
人生観, 価値観	48	27		11	1	9
余暇, 休養	19	7	6	1	1	4
趣味, ボランティア	7	4		1		2
学習, 文化	15	8	3	1	1	2
グループ・組織活動	5	3		1		1
生活水準	2	1		1		
経済, 政治, 社会	2		1			1
儀礼, 宗教	9	4	2	2		1

注(1) 時間の領域, 主題とも複数にコードした。

(2) 恩人と伝統, 慣習, 地域については, これを主題とする掲載文がなかった。

文例 I-b

次の投稿文は、結婚で大分県の開拓地に入植した一人の女性によるものである。10 年間の回顧して農業経営と家族の創造の過程について、諸条件の整い難さを含めて述べている。

(略) 三十二年春、何も知らないままとついで来てはや十年の月日が過ぎました。家は小さなバラック建てで日夜を明かし、毎日原野を一くわ一くわ開墾し、朝は夜の明けきらぬ内から、星が出るまでがんばって、少しずつ畑を広げ、畑作に適したものは何からでも植え付け、……。

(中略)

世間の風と貧しさは表せないくらいでした。夢に励まされ、お互いに励まし合って過ごして来ました。

(中略)

どんな事があっても夢と希望は強く抱いて、子供が成長し、社会の一員となる時は、他産業と格差のない生活をし、喜んで農業のあとをついでもらいたいと願いながら、きょうもがんばっております。

記名あり、29 歳 (大分県)、昭和 42 年 11 月 22 日

文例 I-c

愛知県の農家主婦が、料理の味つけや栄養のバランスがうまくできないことを理由に、家族生活に参加していく上での不都合を訴えた文例を最後に挙げる。夫婦関係が円滑さを保ち難いことに触れながら、料理に十分な関心を持ってない現状と食生活への反省を述べたものである。

(略) 私の信頼している夫は、私の調理について毎日、毎日三度が三度不満を述べるのです。でんぶん質が多すぎる、ビタミン A が足りな

くてその上カルシウムは全然ない、などという有様。

その上に私と家族との味のつけ方が全然両立しない。(中略) しゅうとめの料理は喜んで食べる夫。私にはえくりかえる苦しみをがまんしてきました。

(略) 私の育った家は二ヘクタールもある畑作ばかりの多忙な土地でした。多忙さということが食事のことについては、小言をいわせませんでした。

(中略)

女学校時代は空襲と工場勤務。本でこそ調理や栄養の事を学習しましたが、将来必要な女の最も大切なものなどとは考える暇などありませんでした。(略)

記名あり、37 歳 (愛知県)、昭和 42 年 9 月 11 日

(2) II 期——昭和 55 年 7 月～56 年 6 月——

II 期は、I 期から 13 年を経過した昭和 55 年 7 月からの 1 年間である。国際婦人年 (1975＝昭和 50 年) とそれに続く「国連婦人の十年」の中にこの期は位置づけられる⁽²⁾。I 期からこの期までの間に同コラムでは掲載文数が増加し、読者の集会が地域を超えて開催されるようになり、世話人の会が組織されている。

II 期の「女の階段」には、合計 290 の投稿文が掲載されている。既に述べたように、主題としては、家族及び農業が多く扱われており、また学習活動に関する記述がまとまって見受けられる。他に自然が主題として多く扱われている。

第 13 表に、投稿者の年齢階層別に主題の数を示した。家族を主題 (の 1 つ) としたものが 30 歳代、40 歳代、50 歳代の順に多くそれぞれ 30 例、27 例、及び 22 例である。他に農業に触れた文が 50 歳代で 19 例、30 歳代と 40 歳代でそれぞれ 16 例見受けられる。学習

第13表 年齢階層と主題 (2)

	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不 明
計	549	20	105	149	134	60	5	76
自然、環境、気象	33	1	6	8	8	6		4
農 業	81	6	16	16	19	12	1	11
農業以外の仕事、家事	19		7	4	5	1		2
衣生活	5			3				2
食生活	19	1	3	5	7			3
住 居	2			1		1		
家族、家族関係	109	6	30	27	22	11	2	11
近隣関係	1							1
親族、親戚関係	19	1	1	4	7	3		3
知人、友人	15		4	4	3	2	1	1
恩 人	8			4	1			3
健 康	5			1	3			1
病気、事故	26			10	10			4
生活史、生活段階	17		5	6	3	2		1
人生観、価値観	21	1	5	7	6			2
余暇、休養	18	1	6	2	4	3		2
趣味、ボランティア	25		5	7	6	5		2
学習、文化	49	1	8	14	11	3		12
グループ・組織活動	22		1	9	5	3		4
生活水準	6	1		1	1	3		
経済、政治、社会	21	1		5	7	3	1	4
伝統、慣習、地域	11		2	6	1	2		
儀礼、宗教	15		4	5	4			2
その他	2				1			1

資料：「女の階段」Ⅱ期より作成。第14表以下も同様である。

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 10歳代及び80歳代については、これと明記された投稿者による掲載文はなかった。

活動については、40歳代の投稿者が比較的多く扱っている(14例)。

第14表に、投稿者の居住地域別に主題を示した。投稿者の最も多い関東・東山地域で、家族に関する記述が37例、農業に関する記述が29例見受けられる。学習活動に関する記述もまた、この地方においてまとまって見受けられる(18例)。

第15表に、記述のスタイル別に主題を示した。記述を自己目的とした投稿文や近況報告的な投稿文の中で、この2つのスタイルをとる家族を主題とする投稿(それぞれ39例と40例)と農業を主題とする投稿(それぞれ36例と35例)が多い。他に、感慨の記述をスタイルとする、家族及び農業を主題とする投稿文がそれぞれ20例及び19例あり、家族に関して、意見などを述べた投稿文も19例見受けられる。

第16表に記述者の準拠枠を示す。酪農業

者としての記述や、主婦、農家成員としての記述が多く、主題との関連で、酪農業者及び農家成員として農業について書いた文(64例及び36例)、農家成員、母親、酪農業者及び主婦として家族について書いた文(それぞれ42例、38例、36例及び35例)がまとまって見受けられる。

なお、以下にⅡ期にコラムに掲載された若干の文例を示すが、第17表に示したように、Ⅱ期の掲載文には家族についてのパーソナルな記述(88例)、農業についてのパーソナルあるいは中間的な性格の記述(36例及び34例)、学習活動についての中間的な性格の記述(26例)、病気や事故についてのパーソナルな性格の記述(23例)が多い。また第18表に示したようにⅡ期の掲載文には、家族についての中立的及び肯定的な性格の記述(61例及び31例)、農業についての中立的及び肯定的な性格の記述(50例及び22例)、学習活動

第14表 居住地域と主題 (2)

	計	北海道	東北地域	北陸地域	関東・東山地域	東海地域	近畿地域	中国地域	四国地域	九州地域	不明
計	549	29	65	36	181	86	13	16	42	66	15
自然, 環境, 気象	33	1	10	2	9	1	2	2	3	3	
農 業	81	3	11	2	29	14	1	2	4	12	3
農業以外の仕事, 家事	19	3	3	2	4	2	1		1	2	1
衣生活	5			1		3					1
食生活	19	3	1	2	6	1				4	2
住 居	2				2						
家族, 家族関係	109	5	13	6	37	17	4	2	6	15	4
近隣関係	1			1							
親族, 親戚関係	19	1	2		3	7		2	2	1	1
知人, 友人	15	1	1	1	4	1			3	4	
恩 人	8		1		2	1		2	1	1	
健 康	5				3				1	1	
病気, 事故	26	1	3		13	4		1	2	2	
生活史, 生活段階	17	1	2	3	6	2	1		1	1	
人生観, 価値観	21	4		2	7	5	1		1	1	
余暇, 休養	18	2	2	1	3	5			1	4	
趣味, ボランティア	25	1	3	5	7	3	1	1	3	1	
学習, 文化	49	1	4	6	18	7	1	2	5	3	2
グループ・組織活動	22	1	1	1	7	6			2	4	
生活水準	6		1		2				1	1	1
経済, 政治, 社会	21		4		9	1		1	4	2	
伝統, 慣習, 地域	11			1	3	4	1		1	1	
儀礼, 宗教	15		3		6	2		1		3	
その他	2	1			1						

注. 主題は複数にコードした。

第15表 記述のスタイルと主題 (2)-1

	計	記述, 記録	感動, 感謝, 感慨	訴え, 相談	励まし	近 況 の 報 告	呼びかけ, 紹介	提案, 意見, 感想	抱負, 展望, 心情	想起, 回顧	その他
計	775	200	114	19	11	184	28	96	52	66	5
自然, 環境, 気象	41	13	2	1	3	10	1	6	2	3	
農 業	120	36	19	2	3	35	2	6	6	10	1
農業以外の仕事, 家事	29	7	3	1	1	11		2	1	3	
衣生活	6	3	1			2					
食生活	28	8		2		9	4	3		2	
住 居	2		2								
家族, 家族関係	148	39	20	2	1	40	1	19	11	14	1
近隣関係	1			1							
親族, 親戚関係	23	5	6			3		3	1	5	
知人, 友人	23	8	3	2		3	2	3	1	1	
恩 人	15	1	5					2	4	3	
健 康	8	1				4	1	1		1	
病気, 事故	39	13	2	2	1	10	2	2	3	3	1
生活史, 生活段階	28	5	5			4			5	9	
人生観, 価値観	27	4	4			5		8	3	3	
余暇, 休養	29	14	10		1	1	1	1		1	
趣味, ボランティア	32	5	3	1		13		5	2	3	
学習, 文化	68	15	15	1		13	4	11	4	4	1
グループ・組織活動	30	8	3	1		8	6	2	2		
生活水準	7	1				1		5			
経済, 政治, 社会	28	3	2	2	1	4	2	11	1	1	1
伝統, 慣習, 地域	18	4	2			6	1	2	3		
儀礼, 宗教	23	7	6	1		2		4	3		
その他	2		1				1				

注. 記述のスタイル, 主題とも複数にコードした。

第16表 記述者の準拠枠と主題 (2)

	計	主婦	嫁	母親	祖母	配偶者	農家の成員	農村居住者	世代・時代	家	グループ	組織・学校	酪農業者	女性	その他
計	1,038	181	27	109	12	22	170	48	29	17	78	9	204	77	55
自然, 環境, 気象	55	10		2	1	1	10	7	1				16	4	3
農業	152	16	2	13		3	36	3	1	1	3		64	5	5
農業以外の仕事, 家事	46	11	1	5	1	1	8	1		1		7	7	2	1
衣生活	13	2	1				2		1		1		3	2	1
食生活	40	15	1	4	1		8			2	2		3	2	2
住居	4	1					2		1						
家族, 家族関係	213	35	11	38	4	5	42	6	4	3	3		36	10	16
近隣関係	3	1											1	1	
親族, 親戚関係	30	8	1	4	2		3		1	3	1		2		5
知人, 友人	26	3				1	2	1	3		5	1	4	5	1
恩人	10	2		1						1	2		2	2	
健康	11	2					1	1	1	1	1			2	1
病気, 事故	45	7	3	6		3	3	1	1	3	1		9	5	3
生活史, 生活段階	31	3	2	8		1	7				1		6	1	2
人生観, 価値観	46	11		9	1	1	11	2	2		2		5	1	1
余暇, 休養	30	5		5		1	2	1	1	1	4		5	2	3
趣味, ボランティア	52	7	1	1		1	5	5	5		7		8	10	2
学習, 文化	95	18	1	4	2	1	12	9	3		20	1	9	14	1
グループ・組織活動	42	6				2	2	2	1		19		7	3	
生活水準	11	5					2	1					1	1	1
経済, 政治, 社会	39	6	2	2			7	1	3		2		9	2	5
伝統, 慣習, 地域	18	2		1		1	3	5			2		4		
儀礼, 宗教	22	4	1	6			1	2		1	2		2	2	1
その他	4	1					1						1	1	

注(1) 準拠枠, 主題とも複数にコードした。

(2) 村に準拠する掲載文はなかった。

第17表 記述のスタイルと主題 (2)-2

	計	パーソナル	中間	インパーソナル
計	549	300	188	61
自然, 環境, 気象	33	9	14	10
農業	81	36	34	11
農業以外の仕事, 家事	19	8	11	
衣生活	5	3	2	
食生活	19	8	8	3
住居	2		2	
家族, 家族関係	109	88	17	4
近隣関係	1		1	
親族, 親戚関係	19	17	2	
知人, 友人	15	10	4	1
恩人	8	5	3	
健康	5	4	1	
病気, 事故	26	23	3	
生活史, 生活段階	17	12	4	1
人生観, 価値観	21	12	6	3
余暇, 休養	18	10	8	
趣味, ボランティア	25	13	11	1
学習, 文化	49	15	26	8
グループ・組織活動	22	5	12	5
生活水準	6	3	2	1
経済, 政治, 社会	21	3	10	8
伝統, 慣習, 地域	11	2	4	5
儀礼, 宗教	15	13	2	
その他	2	1	1	

注. 主題は複数にコードした。

第18表 記述のスタイルと主題 (2)-3

	計	肯定的, 積極的	中間, 中立的	否定的, 問題として認知
計	549	166	312	71
自然, 環境, 気象	33	2	25	6
農 業	81	22	50	9
農業以外の仕事, 家事	19	6	13	
衣生活	5	1	4	
食生活	19	4	14	1
住 居	2	1	1	
家族, 家族関係	109	31	61	17
近隣関係	1		1	
親族, 親戚関係	19	4	13	2
知人, 友人	15	7	7	1
恩 人	8	4	4	
健 康	5	2	3	
病気, 事故	26	2	20	4
生活史, 生活段階	17	5	11	1
人生観, 価値観	21	7	9	5
余暇, 休養	18	10	8	
趣味, ボランティア	25	14	11	
学習, 文化	49	26	19	4
グループ・組織活動	22	9	13	
生活水準	6		2	4
経済, 政治, 社会	21	1	6	14
伝統, 慣習, 地域	11	6	5	
儀礼, 宗教	15	2	10	3
その他	2		2	

注. 主題は複数にコードした。

についての肯定的な性格の記述 (26 例), 自然・環境に関する中立的な性格の記述 (25 例), 病気・事故についての中立的な性格の記述 (20 例) がまとまって見受けられる。さらに, 第19表は, II期の掲載文に家族及び農業について現在を中心として記述した文が多い (それぞれ 86 例及び 73 例) ことを示している。

文例 II-a

子供の手伝いを得てラッカセイの播種を行ったことを記述した次の文例は, 貧困でもなく長年の労苦でもなく心労についてでもなく, 何でもない休日の家族と農業についてのものである。

日曜日の今日, 朝から曇り空。ラッカセイをまく準備に忙しい。雨が降らないうちに, マルチビニールを畑に張らなければならない。大学生の息子が手伝うといって, 主人と一緒に早ば

やと畑に出かけていった。

(中略)

さて一服の時, 主人は「お前よりよほど (息子の方が) 早くてはかどったよ」と, 父子歩調を合わせて張ったマルチビニールの畑を見ながら, うれしそうにいった。「来年もよろしく願います」と私がおどけて息子を見ると, 笑いながらジュースを飲んでいる。

山畑の草の上に座り, この小さな幸せのひとつが風船のように胸をふくらまします。しばまてたくないこの幸せ, いつかの日, 息子にお嫁さんが来て孫が生まれ, 一家そろって畑で澄んだ青空が見たい…… (略)

記名あり, 43 歳, 農業 (千葉県), 昭和 55 年 7 月 1 日

文例 II-b

次の記述は田植えについてのものであり, 家族周期段階が若干異なるけれども, 先の文

第19表 時間の領域と主題 (2)

	計	現 在	過去の 一時点	過 去 の 一定期間	将 来	不 定・ その他
計	727	425	108	100	9	85
自然, 環境, 気象	42	29	3	4		6
農 業	109	73	11	13	2	10
農業以外の仕事, 家事	25	16	2	6		1
衣生活	6	5		1		
食生活	23	16	1	1		5
住 居	2	2				
家族, 家族関係	149	86	15	24	3	21
近隣関係	1	1				
親族, 親戚関係	29	13	5	8		3
知人, 友人	19	9	8			2
恩 人	10	6	4			
健 康	6	5		1		
病気, 事故	34	20	7	6		1
生活史, 生活段階	29	16	1	12		
人生観, 価値観	30	18	1	7	1	3
余暇, 休養	21	9	8	2		2
趣味, ボランティア	32	21	5	5		1
学習, 文化	65	31	19	6	1	8
グループ・組織活動	25	14	6		1	4
生活水準	7	3				4
経済, 政治, 社会	25	14	1	1		9
伝統, 慣習, 地域	14	7	4	1		2
儀礼, 宗教	22	9	7	2	1	3
その他	2	2				

注. 時間の領域, 主題とも複数にコードした。

例(Ⅱ-a)と非常によく似た性格を備えている。

記名あり, 39歳, 農業(熊本県), 昭和55年7月5日

六月のある日曜日, わが家では田植えを行いました。主人が田植え機で植え, 息子が苗の交換をします。私は機械で植えてないすみずみを植えます。小学生の娘も「何本ぐらいずつ?」といいながら植え始めました。

初め深く植えすぎて苗が見えなくなったり, 間隔がわからず戸感っていた娘も, 少しずつ上手になっていきました。そのうち, 主人が中学生の息子に「交代してみよう」と声をかけました。さすが男の子です。機械を使うのもなかなか上手なものです。幅が広くなったり狭くなったりはするものの, がんばって植えてくれました。お陰で仕事はすっかり片付きました。

(中略)

その夜の夕食のにぎやかだったこと。ご飯が大好きなわが家の子供たち, 何杯もおかわりしておりました。

文例Ⅱ-c

農協の若妻学級の旅行で視察と娯楽を楽しんだ1日についての記述例を次に挙げる。学級の活動実績と留守を依頼する家族への言及がなされており, 翌日からの農作業への励みとしてその日の出来事を要約的に記述している。

(略)今日は春からまちわびていた, 年に一回の若妻学級日帰り旅行です。

(中略)

朝から子供のようにはいしゃいでいる私。でもちょっぴりいじわるな空模様。これじゃ, こうもりがさを持たなければ……「ねえ, お父さん, このブラウスとスカートでおかしくなーい?」お菓子, ミカン, バナナも用意できたし, お姑(かあ)さん, 子供たちをおねがいします。さ

あ、出発。

(中略)

温泉でのなごやかな会食、勧められるままにお酒をいただき、顔が赤くなりました。

お姑さん、子供たちへのみやげを買い、次にT町の魚市場を見学しました。安いとは聞いていましたが、本当に安いのでたくさん買いました。

(中略)

楽しかった、若妻学級日帰り旅行でした。知らない人たちとも友だちになり、なんだかひとまわり大きくなったように思います。これを糧とし明日からの農作業に励みたいと思います。

記名あり、(新潟県)、昭和55年11月17日

文例Ⅱ-d

不幸な家族像も提示される。次の文例は、野菜農家の主婦が結婚後の過労と闘病、その過程で小さな子供たちを家の仕事に巻き込んでしまったことなどについて記述したものである。

知人もない寒村に嫁し、その年に長男を出産し、二年後に二男を出産しましたが、産後も浅くして田に入ったため腎盂(じんう)炎になり慢性化し乳児と枕を並べ思案に暮れた私。やっと二年後に快方の兆しが見え、四年後に長女を出産した直後、関節リウマチにかかり、またもや闘病生活に入ってしまった。

農作業と無縁になってしまった私の労力を補うために、当時六歳と四歳だった子供にまで仕事をあてがい、無理のさせ通しでした。高原野菜の産地は労力が集中するため、他に仕方なかったのですが、小学校三年になると、洗たくから看病もさせ、子供の寂しい顔を見るにつけ、胸のはりさける思いでした。(略)

やがて……、私の病も好転し、昨年は、毎日畑に出られるようになりました。(中略)……こ

の経験を将来への足がかりにしてほしいと願わずにはいられません。春になれば長男は中学に進みます。雪どけが待たれます。

記名あり、39歳(群馬県)、昭和56年1月30日

(3) Ⅲ期——平成2年7月～3年6月——

Ⅲ期は、Ⅱ期から10年を経た平成2年からの1年間である。昭和63年に、「西暦2000年に向けての国内行動計画」の一環として農山漁村婦人の日が設定され、女性の役割の理解と意識の向上を求めて記念行事などが行われた⁽³⁾。平成3年6月には農林水産省婦人・生活課⁽⁴⁾が主導して「農山漁村の女性に関する中長期ビジョン懇談会」が組織され、第1回懇談会が開催されている。その後も重ねて懇談会などが開催され、平成4年6月26日には上記ビジョンが公表されている。その報告書に「めざそうとする姿」が提示されており、女性の地位向上が引き続き目指され、農山漁村のよさを生かした生活重視のライフスタイルを追求することが明記されている。そして、農村女性が「自分の生き方を自由に選択し、自分の人生を自身で設計し、その結果、自信と充実感をもって暮らしている姿」が目指されている⁽⁵⁾。Ⅲ期はこのような時期に位置している。

Ⅲ期の「女の階段」の掲載文数は、合計352に及ぶ。Ⅰ期、Ⅱ期と同様、家族を主題とする掲載文が最も多く、農業を主題とする掲載文がこれに次ぐ。他に、学習活動に関する掲載文や、また親族、生活史及び事故・病気に関する掲載文が見受けられる。

第20表に投稿者の年齢階層別に主題を示す。Ⅲ期には年齢不明のグループを別とすれば60歳代が最多で、次に50歳代と40歳代が多い。この3つの年齢階層及び30歳代の投稿者が、家族、農業及び学習活動に関する文を書いている。すなわち、40歳代の投稿者

第 20 表 年齢階層と主題 (3)

	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	不 明
計	704	21	76	136	131	137	13	8	182
自然, 環境, 気象	29	2	2	2	2	8	2		11
農 業	98	3	15	24	16	16	1	1	22
農業以外の仕事, 家事	12	1	1	4	2	1			3
衣生活	2					2			
食生活	26	2	5	1	6	4		1	7
住 居	2				1	1			
家族, 家族関係	108	7	16	20	22	17	1	1	24
近隣関係	3				1	1			1
親族, 親戚関係	38		1	5	8	11			13
知人, 友人	21	1	1	5	3	6		1	4
恩 人	5			2	1	1			1
健 康	3	1		1		1			
病気, 事故	35		2	8	10	5		1	9
生活史, 生活段階	37	1	2	4	11	7	1	1	10
人生観, 価値観	46		7	8	2	8	2	1	18
余暇, 休養	48	2	5	9	6	12	1		13
趣味, ボランティア	13			3	1	3	1	1	4
学習, 文化	58		8	16	12	9			13
グループ・組織活動	29		1	6	9	3	1		9
生活水準	2				1		1		
経済, 政治, 社会	11			2	5	1			3
伝統, 慣習, 地域	29		4	7	3	8	1		6
儀礼, 宗教	19		2	2	6	3			6
その他	30	1	4	7	3	9	1		5

資料: 「女の階段」Ⅲ期より作成。第 21 表以下も同様である。

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 10 歳代と明記された投稿者による掲載文はなかった。

が農業 (24 例), 家族 (20 例) 及び学習活動 (16 例) についての文をたくさん寄稿している。また, 50 歳代の投稿者が家族及び農業について主題化した文章がそれぞれ 22 例及び 16 例見受けられる。60 歳代の寄稿者についても同様に, 17 例及び 16 例見受けられる。30 歳代の寄稿者同様に 16 例及び 15 例見受けられる。

第 21 表に, 寄稿者の居住地域別にどのような主題を扱った文がいくつあるかについて示す。Ⅲ期の投稿者も, I 期, II 期と同様に, 関東・東山地域が最多である。全体として, 関東・東山地域の投稿者による家族 (32 例), 農業 (23 例), 学習活動 (18 例) 及び余暇 (17 例) を主題 (の 1 つ) とする投稿文が多く, 他に, 東海地域の投稿者による家族に関する投稿文 (15 例), 九州地域の投稿者による農業に関する投稿文 (16 例) がまとまって見受

けられる。

第 22 表に記述のスタイル別に主題を示す。Ⅲ期には, 記述を自己目的とした投稿文が最も多く, また, 他に, 感慨を記した文が多い。意見や感想を述べた文, 近況報告的な投稿文, 抱負や心情を述べた文, 回顧的なスタイルをとる投稿文などもまとまって見受けられる。以上の中で, 記述を自己目的とした投稿文が, 家族 (73 例) や農業 (67 例) を主題として多く掲載されている。また, 同じスタイルをとる投稿文で, 学習活動に関するもの (45 例), 余暇に関するもの (41 例) も, 注目される。

第 23 表に記述者の準拠棒と主題の連関を示す。農業についての酪農業者, 農家成員, 主婦としての記述 (81 例, 41 例及び 23 例), 家族についての農家成員, 酪農業者, 主婦, 及び世代の担い手としての記述 (42 例, 40

第21表 居住地域と主題 (3)

	計	北海道	東北地域	北陸地域	関東・ 東山 地域	東海 地域	近畿 地域	中国 地域	四国 地域	九州 地域	不 明
計	704	37	56	29	199	104	47	70	54	92	16
自然、環境、気象	29	2	1		5	6	3	6	2	4	
農 業	98	6	10	6	23	12	8	7	9	16	1
農業以外の仕事、家事	12	1	3	1	2	1			1	1	2
衣生活	2				1						1
食生活	26	2	2	1	10	3	1	5	1	1	
住 居	2		1		1						
家族、家族関係	108	6	8	3	32	15	5	9	11	12	7
近隣関係	3				1				2		
親族、親戚関係	38	1	5	3	12	7	3	1	1	4	1
知人、友人	21	1		1	3	5	2	4	3	2	
恩 人	5				1	3		1			
健 康	3				2		1				
病気、事故	35	2	2	2	10	4	5	2	5	3	
生活史、生活段階	37	2	3	2	12	4	5	2	1	5	1
人生観、価値観	46	3	3	3	11	4	1	7	4	8	2
余暇、休養	48	3	5	1	17	8	2	5	2	5	
趣味、ボランティア	13		2		5	2		1	1	2	
学習、文化	58	4	3	1	18	11	2	5	3	11	
グループ・組織活動	29	2	2		12	5	1	3		4	
生活水準	2				1	1					
経済、政治、社会	11		1	1	3	2		1	1	2	
伝統、慣習、地域	29	1	1	3	8	2	2	4	1	7	
儀礼、宗教	19		1	1	2	5	4	1	3	2	
その他	30	1	3		7	4	2	6	3	3	1

注。主題は複数にコードした。

第22表 記述のスタイルと主題 (3)-1

	計	記述、 記録	感動、 感謝、 感慨	訴え、 相談	近 況 の 報 告	呼び かけ、 紹介	提案、 意見、 感想	抱負、 展望、 心情	想起、 回顧	その他
計	1,079	476	153	21	95	14	98	85	85	52
自然、環境、気象	40	22	3		3	1	6	1	3	1
農 業	139	67	17	2	15	4	13	11	10	
農業以外の仕事、家事	28	9	1		1		2	2	1	12
衣生活	4		1		1					2
食生活	57	16	4		1		7	1	2	26
住 居	5	2						1		2
家族、家族関係	156	73	18	5	17	2	10	18	12	1
近隣関係	5	3	1		1					
親族、親戚関係	61	28	13		4	1	1	6	8	
知人、友人	36	13	10		1	1	2	2	5	2
恩 人	6	2	2					2		
健 康	3	1					2			
病気、事故	55	24	6	3	8		2	4	8	
生活史、生活段階	65	21	9	2	5		2	12	14	
人生観、価値観	64	21	7	2	9		14	6	5	
余暇、休養	74	41	21		3		4	2	2	1
趣味、ボランティア	18	6	3		5		1	1	1	1
学習、文化	90	45	15	1	6	1	12	7	2	1
グループ・組織活動	47	22	8		4	1	5	5	1	1
生活水準	2	1		1						
経済、政治、社会	13	3	1	2	2		4	1		
伝統、慣習、地域	40	21	6		6	1	5		1	
儀礼、宗教	28	16	4					2	6	
その他	43	19	3	3	3	2	6	1	4	2

注(1) 記述のスタイル、主題とも複数にコードした。

(2) 励ましのスタイルをとる掲載文はなかった。

第23表 記述者の準拠枠と主題 (3)

	計	主婦	嫁	母親	祖母	配偶者	農家の 成員	農村 居住者	世代・ 時代	家	グル ープ	組織・ 学校	酪農 業者	女 性	その他
計	1,412	179	31	117	21	17	193	80	138	37	81	36	269	125	88
自然, 環境, 気象	43	7		1	1		3	7	5		1		12	4	2
農業	206	23	3	13	5	1	41	3	7	3	5	3	81	10	8
農業以外の仕事, 家事	30	7		5			6		2	1			6	2	1
衣生活	6	1					1	1	1				2		
食生活	54	16		6	2		9	3	6	1	1	1	3	2	4
住居	3	1							1	1					
家族, 家族関係	232	29	12	34	4	7	42	5	20	6	6		40	16	11
近隣関係	8	3			1		1	2			1				
親族, 親戚関係	75	7	2	13	2	1	6	2	5	6	2		11	4	14
知人, 友人	45	5	1				7	3	6		2	1	8	6	6
恩人	8								1		1			2	3
健康	3	1												2	
病気, 事故	61	7	3	5	1	3	10	2	2	3	1	1	12	3	8
生活史, 生活段階	78	3	1	10	2	1	8	1	14	5	3		15	7	8
人生観, 価値観	84	8		8			8	3	16	1	6		16	12	6
余暇, 休養	91	13	1	8	1	2	9	9	14	1	2	6	9	13	3
趣味, ボランティア	28		1	1			1	2	6		5	1	3	8	
学習, 文化	119	19	2	4			14	8	13		17	7	20	12	3
グループ・組織活動	63	5	1	1			5	8	5		17	10	5	5	1
生活水準	5	1		1			1			1			1		
経済, 政治, 社会	24	1		2			3	1		4	3		5		3
伝統, 慣習, 地域	60	7		1			6	16	3	1	5	4	11	5	1
儀礼, 宗教	37	4	2	3	1	1	4	3	3	5			4	1	6
その他	49	11	2	1	1	1	8		4		3	2	5	11	

注(1) 準拠枠, 主題とも複数にコードした。

(2) 村に準拠する掲載文はなかった。

例, 29例及び20例)が多く見受けられる。

以下に, Ⅲ期にコラムに掲載された若干の文例を示すが, 第24表に示されたように, Ⅲ期の掲載文には農業についての中間的な性格の文(57例), 家族についてのパーソナルな及び中間的な性格の文(54例及び52例), 学習活動についての中間的な性格の文(38例), 余暇についての中間的な性格の文(30例)が多い。また, 第25表に示されたように, Ⅲ期の掲載文には家族についての中立的な性格の文が66例, 農業についての中立的な性格の文が64例見受けられる。さらに, 第26表は, Ⅲ期の掲載文に家族や農業について現在を中心として記述した文が多い(それぞれ87例及び75例)ことを示している。

文例Ⅲ-a

次の文章は, 農家の日常的な野菜や果物の

授受についてのものである。農家のライフスタイルの一端が示される。

家で楽しみに作っているイチゴが食べきれないほど熟したので昨日, 隣家にモロヘイヤの種子とともにあげました。そうしたら立派なダイコンとキュウリを頂きました。そして今日は知人より私の留守にビワをたくさん頂きました。

(中略)

お金さえあれば何でも手に入る世の中ですが, 私は丹精して作った物を上げたり, 頂いたりするこの田舎の生活に生きる喜びを感じています。

(中略)

少々曲がったキュウリでも, 傷があるものでも味は一緒ですもの。お金で買ったものより, 心が込もっていて良いと思います。私はこの丹精して作った物を頂いたり, あげたりして近隣

第 24 表 記述のスタイルと主題 (3)-2

	計	パーソナル	中 間	インパーソナル
計	704	244	364	96
自然、環境、気象	29	4	14	11
農 業	98	24	57	17
農業以外の仕事、家事	12	2	10	
衣生活	2		1	1
食生活	26	5	15	6
住 居	2		1	1
家族、家族関係	108	54	52	2
近隣関係	3		3	
親族、親戚関係	38	26	11	1
知人、友人	21	8	11	2
恩 人	5		4	1
健 康	3	2		1
病気、事故	35	28	7	
生活史、生活段階	37	26	11	
人生観、価値観	46	19	19	8
余暇、休養	48	14	30	4
趣味、ボランティア	13		11	2
学習、文化	58	5	38	15
グループ・組織活動	29	4	18	7
生活水準	2	1	1	
経済、政治、社会	11	2	4	5
伝統、慣習、地域	29		22	7
儀礼、宗教	19	11	7	1
その他	30	9	17	4

注. 主題は複数にコードした。

第 25 表 記述のスタイルと主題 (3)-3

	計	肯定的、 積極的	中 間、 中立的	否定的、問題 として認知
計	704	194	445	65
自然、環境、気象	29	2	22	5
農 業	98	28	64	6
農業以外の仕事、家事	12	2	10	
衣生活	2	1	1	
食生活	26	6	17	3
住 居	2		2	
家族、家族関係	108	32	66	10
近隣関係	3	1	2	
親族、親戚関係	38	12	24	2
知人、友人	21	8	13	
恩 人	5	1	4	
健 康	3	1	1	1
病気、事故	35	2	29	4
生活史、生活段階	37	10	24	3
人生観、価値観	46	11	27	8
余暇、休養	48	20	26	2
趣味、ボランティア	13	6	6	1
学習、文化	58	24	33	1
グループ・組織活動	29	10	17	2
生活水準	2		1	1
経済、政治、社会	11	1	4	6
伝統、慣習、地域	29	6	21	2
儀礼、宗教	19	5	12	2
その他	30	5	19	6

注. 主題は複数にコードした。

第 26 表 時間の領域と主題 (3)

	計	現 在	過去の 一時点	過 去 の 一定期間	将 来	不 定・ その他
計	1,053	436	337	168	13	99
自然, 環境, 気象	44	17	12	4		11
農 業	149	75	36	22	3	13
農業以外の仕事, 家事	18	10	3	3		2
衣生活	3	2				1
食生活	36	21	6	5	1	3
住 居	3	1				2
家族, 家族関係	162	87	31	30	1	13
近隣関係	4	1	3			
親族, 親戚関係	62	23	23	13		3
知人, 友人	32	10	15	6	1	
恩 人	6	3	3			
健 康	4	2				2
病気, 事故	63	26	18	18		1
生活史, 生活段階	65	27	16	20		2
人生観, 価値観	73	29	13	16		15
余暇, 休養	56	11	38	2	1	4
趣味, ボランティア	16	7	7	1	1	
学習, 文化	84	22	41	8	3	10
グループ・組織活動	37	12	21	2		2
生活水準	4	1	1	2		
経済, 政治, 社会	18	9	4	3		2
伝統, 慣習, 地域	43	19	16	1	1	6
儀礼, 宗教	29	9	13	6		1
その他	42	12	17	6	1	6

注. 時間の領域, 主題とも複数にコードした。

仲良く暮らす生活に満足しています。

記名あり, 64 歳 (高知県), 平成 2 年 7 月
7 日

文例Ⅲ-b

次の文例は, 多忙な農家で育児と家事を担当する主婦によるものである。

朝五時, あゝもう少し寝ていたいなあと思うのですが, 朝ご飯の支度をしなくてはと, 気合いを入れて布団から抜け出します。早朝の天気予報を聞いて私の一日が始まります。朝の二～三時間は, やることがたくさんあります。

十時すぎ, やっとひと息つけました。ヨチヨチ歩きの一歳の子供と散歩に出かけます。ふだんはかまってやれないのでこの時ばかりは逆孝行? です。

(中略)

十一時半, 身体を使う仕事ですから農家のお昼は早めです。(略)

二時すぎ, やっと子供がお昼寝です。イチゴ詰めのないこの時期だけはほんの少し自分の時間が持てます。毎日, 友人や知人に季節のはがきを一枚書きます。私のささやかな趣味の時間です。

一時間後, 子供が起きました。さあ, また忙しい日常に戻ります。子供が寝つく九時までには, 家事, 子供の世話, 作業の手伝いと三つどもえです。(略)

匿名希望 (26 歳), 平成 2 年 7 月 24 日

文例Ⅲ-c

次の文例では, 三人の男の子たちの全てが価値観や生活スタイルを自らと異にしてしまったために, 自らの存在意義までを問いかけざるをえなくなった女性 (63 歳) が訴えを

している。

5日

男子三人が国立大学卒業、有名会社、団体に就職、結婚し、独立している子供の母親（六三）です。私は小学校卒で何の学歴もないのですが、人は「立派な秀才の子供さんばかりで」とうらやみます。

私は夫を含む四人男家族の中で孤軍奮闘、子供を育て上げたつもりです。（略）

私は子供たちに無視され続けています。子供のころから、進学高校の決定、成績と進学大学の決定、大学合格、卒業、就職と母親の私は無視されたまま育ってしまいました。子供たちはそれぞれ新しい住居についてそれなりの金銭的応援をしても、私は完全に相談もなく無視され続けました。

食事、洗濯だけでほかに子供とのかかわりは全くありません。小学校卒の母親と最高の学府卒とは違いすぎて、相談なんかできないのでしょうか。私の無学、無知を心に深く刻み込んでいるに違いないと思うのです。（略）

匿名希望（千葉県）、平成2年7月27日

文例Ⅲ-d

学習活動についての文例を挙げる。

（略）いま県の婦人問題通信講座に挑戦しています。県の婦人課ではセミナー、講座、海外研修、国際交流など婦人の地位向上のため、いろいろと企画、自分の努力次第で家庭にあっても勉強できる機会のあることを知りました。

（中略）

（略）忙しい農家の主婦で私にできることかどうか随分迷いましたが、夜は自分の自由時間です。勇気を出して応募しました。一回目を提出しまして、ホッとしています。

（略）

記名あり、60歳（静岡県）、平成2年9月

文例Ⅲ-e

身近な機会と義務について整理し、母親としての役割の重要性の再認識を中心として、自己研鑽の意を表明している中年の主婦による文例を、最後に挙げる。

（略）

ハウス園芸のわが家は、三～六月の四か月ほどが、猫の手も借りたい農繁期といえましょう。家事は手抜き、PTAや婦人会などへの参加もご無礼することもできて、末は子供たちとのコミュニケーションにまで支障が出ています。（略）母親である私をおいて、いったいだれが、子供たちへの目配りをしうでしょう。

（略）タイムリーな対応のできる母でありたい。

（略）いろいろな場所で多くの人と出会い、自分とは全く違う観点に立った話にうなづいたり、目新しい料理に出会ったり、こんなことをしてみたいと意欲を持ったりと、自分を見直せるチャンスであると思います。心の豊かさを大切にしたい。そのための時間を惜しまないよう……。

記名あり、36歳（岐阜県）、平成2年7月3日

（4）Ⅳ期——平成7年7月～8年6月——

Ⅳ期は、Ⅲ期から5年後の、平成8年7月からの1年間である。開発援助の文脈において、国際機関が1970年代に生まれた開発と女性（Women in Development）の考え方に加えて、ジェンダーと開発（Gender and Development）の考え方を採り込んだ時期の中に位置している⁽⁶⁾。

日本の農村女性に関連する注目すべき施策として、農業者年金基金法の改正が行われ（平成7年6月）、農業者年金に加入している

夫と「家族経営協定」を結ぶなどした女性の加入が可能となったのが、この時期の直前、平成8年4月からである。また、農林水産省の生活改良普及事業（の代表的推進者）が、施策の対象である農林水産業従事者（女性）に関する考え方においてリベラル・フェミニズムとエコロジカル・フェミニズムの2つの側面をもっていたという、市田の指摘も、傾注される。

氏によれば、普及事業が成立した戦後期に女性はジェンダーとして生活（＝「私」）領域に結び付けられ、昭和40年代には女性が再生産の役割を担うべきとするエコロジカル・フェミニズムの見解が示された。そして1975年の国際婦人年以降、権利や機会の平等を主張するリベラル・フェミニズムの見解が加わった。現在の問題は、女性たちの世代交替によって後者の考え方が定着あるいは導入されるか否かである⁷⁾。

第27表に年齢階層別に掲載文の主題を示した。Ⅳ期には60歳代の投稿者が最も多く、50歳代と40歳代がこれに次ぐ。特に着目されるのは60歳代と40歳代で家族に関する記述がそれぞれ22例及び21例見受けられ、他に、50歳代において、家族と農業に関する記述がまとまって見受けられる。（それぞれ16例。）

第28表に居住地域別に掲載文の主題を示した。関東・東山地域において家族を扱った記述が多く（25例）、また余暇及び人生観に関する投稿文がそれぞれ16例及び15例見受けられることである。他に東海地域と中国地域で、家族に関する投稿文がそれぞれ17例及び16例見受けられる。

第29表に記述のスタイル別に掲載文の主題を示す。Ⅳ期には、感慨を記述した文が最も多く、記述自体を目的にした文がこれに次ぐ。近況報告的なスタイルをとる文及び感想や意見を述べた文も比較的多い。記述を自己目的とする記録において、余暇及び家族を主

題としている例がそれぞれ22例及び29例あり、感慨を記述した例についても同様に25例と26例見受けられる。家族を主題とし感想や意見を書いた例も28例に及ぶ。

第30表に記述者の準拠枠をコードした結果と掲載文の主題について掲表する。全体的に、主婦としての記述が最も多く、また酪農業者及び女性としての立場からの記述及び世代の一員あるいは農家の一員としての記述も比較的多い。酪農業者として農業について記述したものが46例、嫁あるいは農家の一員として家族について記述したものがそれぞれ28例及び29例である。グループ活動について、グループの一員として記述した例（21例）も着目される。

以下にⅣ期にコラムに掲載された若干の文例を示すが、第31表に示されたように、Ⅳ期の掲載文にはパーソナルな性格を帯びたものが多く、主題との関連では家族が圧倒的に多い（76例）。生活史、病気もそれぞれ31例及び29例見受けられる。またパーソナルともインパーソナルともいえない中間的な性格を帯びた農業や家族を主題とする掲載文もそれぞれ27例見受けられる。記述のスタイルとして、さらに第32表に示されたように、肯定的でも否定的でもない中間的な性格の掲載文が最も多く、肯定的な性格の掲載文がこれに次ぐ。前者について、家族を主題とした文が41例、後者について家族と余暇を主題とした文がそれぞれ36例及び31例見受けられる。さらに第33表は、Ⅲ期に家族について現在を中心にした過去のある一定期間のことを記述した文がそれぞれ49例及び35例、農業を主題として現状を書いた文が34例と多く掲載されていることを示している。

文例Ⅳ-a

余暇についての文例から挙げる。

しばらくぶりでペンが走ります。夫との道南

第27表 年齢階層と主題 (4)

	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	不明
計	576	5	39	102	119	136	39	8	128
自然、環境、気象	12			5	2	4			1
農業	60	2	3	10	16	13	5		11
農業以外の仕事、家事	3			1		2			
衣生活	1								1
食生活	15		1	2	2	4	2	1	3
住居	1				1				
家族、家族関係	107	1	11	21	16	22	7	3	26
近隣関係	1								1
親族、親戚関係	19		2	4	4		1		3
知人、友人	23			4	3	11	2		3
恩人	5				2	2			1
健康	7					2			1
病気、事故	34		2	4	3	12	2	2	8
生活史、生活段階	42		4	11	10	4	3		10
人生観、価値観	46	1	5	8	13	6	3		10
余暇、休養	48	1	3	8	13	14	3	1	5
趣味、ボランティア	29		1	9	8	8	1		2
学習、文化	31			10	7	2	3	1	8
グループ・組織活動	27			1	9	7	1		9
経済、政治、社会	17		1	1	4	3			8
伝統、慣習、地域	15		1		3	9			2
儀礼、宗教	17		1	2	1	2	3		8
その他	16		1	1	2	4	1		7

資料：「女の階段」Ⅳ期より作成。第28表以下も同様である。

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 10歳代と明記された投稿者による掲載文はなかった。

(3) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

第28表 居住地域と主題 (4)

	計	北海道	東北地域	北陸地域	関東・東山地域	東海地域	近畿地域	中国地域	四国地域	九州地域	不明
計	576	37	49	13	173	72	42	68	31	70	21
自然、環境、気象	12	1		1	3	1	1	3		2	
農業	60	3	8	3	13	10	5	7	2	8	1
農業以外の仕事、家事	3				1		1	1			
衣生活	1			1							
食生活	15	1	2		6	1		2		3	
住居	1				1						
家族、家族関係	107	8	9		25	17	4	16	9	10	9
近隣関係	1				1						
親族、親戚関係	19		1		5	2	2	3	4	1	1
知人、友人	23	1	1	1	11		4	1	1	3	
恩人	5		1		3			1			
健康	7	1			2	1		1	1	1	
病気、事故	34	4	3	1	9	6	2	4		3	2
生活史、生活段階	42	4	3		11	8	1	5	2	7	1
人生観、価値観	46	1	5		15	5	3	7	3	5	2
余暇、休養	48	4	3		16	8	2	6	3	6	
趣味、ボランティア	29	2	1	1	12	3	2	3	1	4	
学習、文化	31	2	5	2	9	4	1	3		5	
グループ・組織活動	27	2			9	3	6		1	5	1
経済、政治、社会	17	2	2		7	1	1	1		3	
伝統、慣習、地域	15	1	4		5		2	1	2		
儀礼、宗教	17			3	6	2	3	1		1	1
その他	16		1		3		2	2	2	3	3

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

第 29 表 記述のスタイルと主題 (4)-1

	計	記述、 記録	感動、 感謝、 感慨	訴え、 相談	励まし	近 況 の 報 告	呼び かけ、 紹介	提案、 意見、 感想	抱負、 展望、 心情	想起、 回顧	その他
計	758	177	184	37	16	99	25	91	44	79	6
自然、環境、気象	13	5	3			3			1	1	
農 業	78	18	17	3	1	16	1	6	6	10	
農業以外の仕事、家事	5	2	1	1		1					
衣生活	2						1	1			
食生活	17	5	4			3	3	2			
住 居	1							1			
家族、家族関係	142	22	25	16	5	19	1	28	6	19	1
近隣関係	1				1						
親族、親戚関係	24	7	7	1		3		4		2	
知人、友人	30	10	10		1	4	1	2	1		1
恩 人	6	3	1							2	
健 康	7	1	2			1	1	1	1		
病気、事故	44	16	9	2	1	6		2	2	5	1
生活史、生活段階	58	5	11	1	1	11	1	5	8	15	
人生観、価値観	59	4	4	6	5	3	1	18	8	9	1
余暇、休養	68	29	26			7	1	1	3	1	
趣味、ボランティア	40	10	13			10	3		3	1	
学習、文化	37	7	19	1		3		2	1	2	
グループ・組織活動	38	9	12			6	6		1	3	1
経済、政治、社会	25	5	5	5	1		1	4	2	2	
伝統、慣習、地域	20	8	6			1	1	3		1	
儀礼、宗教	25	6	6				1	7	1	3	1
その他	18	5	3	1		2		4		3	

注(1) 記述のスタイル、主題とも複数にコードした。

(2) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

第 30 表 記述者の準拠枠と主題 (4)

	主 計	嫁 婦	母 親	祖 母	配 偶 者	農 家 の 成 員	農 村 居 住 者	世 代・ 時 代	家 村	グ ル ー プ	組 織・ 学 校	酪 農 業 者	女 性	そ の 他	不 明		
計	921	122	61	66	16	26	78	31	83	13	1	79	20	114	89	121	1
自然、環境、気象	21	5		1			2	1	2			2		5	2	1	
農 業	108	15	2	3	3	3	10	3	3			4	2	46	9	5	
農業以外の仕事、家事	7	2			1		1							1	1	1	
衣生活	2	1		1													
食生活	23	12		1			2	1	3		2			1		1	
住 居	2														1	1	
家族、家族関係	177	18	28	21	5	8	29	4	15		2			13	13	21	
近隣関係	1	1															
親族、親戚関係	32	4	3	4			1	1	2	4		1		2	1	9	
知人、友人	31	4							3	1		7	1	3	3	9	
恩 人	6											4		1		1	
健 康	12	1		1					2			1			4	3	
病気、事故	55	4	6		1	6	3	1	4	2		4		6	8	10	
生活史、生活段階	70	14	5	12	2		12	1	3			2		7	4	8	
人生観、価値観	79	7	9	3			10	3	12	1		1		6	14	13	
余暇、休養	68	6	1	4		3	1	1	9	2		8	6	6	10	11	
趣味、ボランティア	46	8		1		2	3	4	5			11	1	1	3	7	
学習、文化	38	4		2		1		1	5			6	4	4	7	4	
グループ・組織活動	36	2						2	1			21	4	3		2	1
経済、政治、社会	33	3	3	1			2	2	7	1	1			6	4	3	
伝統、慣習、地域	27	4		1	3		1	4	5			2	2	1	2	2	
儀礼、宗教	24	2	1	9		2	1			2		1			1	5	
その他	23	5	3	1	1	1		2	2					2	2	4	

注(1) 準拠枠、主題とも複数にコードした。

(2) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

第31表 記述のスタイルと主題 (4)-2

	計	パーソナル	中 間	インパーソナル
計	348	168	117	63
自然, 環境, 気象	12	1	8	3
農 業	60	21	27	12
農業以外の仕事, 家事	3	3		
衣生活	1		1	
食生活	15	6	5	4
住 居	1			1
家族, 家族関係	107	76	27	4
近隣関係	1		1	
親族, 親戚関係	19	16	2	1
知人, 友人	23	14	6	3
恩 人	5	1	2	2
健 康	7	6		1
病気, 事故	34	29	5	
生活史, 生活段階	42	31	9	2
人生観, 価値観	46	24	15	7
余暇, 休養	48	18	22	8
趣味, ボランティア	29	7	16	6
学習, 文化	31	10	11	10
グループ・組織活動	27	6	7	14
経済, 政治, 社会	17	6	6	5
伝統, 慣習, 地域	15	4	5	6
儀礼, 宗教	17	11	6	
その他	16	7	2	7

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

第32表 記述のスタイルと主題 (4)-3

	計	肯定的, 積極的	中 間, 中立的	否定的, 問題 として認知
計	576	222	270	84
自然, 環境, 気象	12	3	8	1
農 業	60	22	29	9
農業以外の仕事, 家事	3	1	1	1
衣生活	1			1
食生活	15	3	10	2
住 居	1	1		
家族, 家族関係	107	36	41	30
近隣関係	1		1	
親族, 親戚関係	19	8	10	1
知人, 友人	23	8	15	
恩 人	5	2	3	
健 康	7	2	5	
病気, 事故	34	7	19	8
生活史, 生活段階	42	13	27	2
人生観, 価値観	46	12	20	14
余暇, 休養	48	31	16	1
趣味, ボランティア	29	16	13	
学習, 文化	31	20	8	3
グループ・組織活動	27	17	10	
経済, 政治, 社会	17	4	7	6
伝統, 慣習, 地域	15	7	8	
儀礼, 宗教	17	5	11	1
その他	16	4	8	4

注(1) 主題は複数にコードした。

(2) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

第33表 時間の領域と主題 (4)

	計	現在	過去の 一時点	過去の 一定期間	将来	不定・ その他
計	768	235	202	150	13	181
自然、環境、気象	15	6	4	3		2
農業	79	34	20	12		13
農業以外の仕事、家事	7	3	2	1	3	
衣生活	2		1			1
食生活	15	6	1			8
住居	1					1
家族、家族関係	150	49	18	35	1	47
近隣関係	1		1			
親族、親戚関係	25	3	8	5		9
知人、友人	28	7	11	4		6
恩人	6	1	4	1		
健康	10	4	2	1		3
病気、事故	50	17	10	16		7
生活史、生活段階	65	28	5	17	3	12
人生観、価値観	66	14	7	13	1	31
余暇、休養	53	11	33	2		7
趣味、ボランティア	38	17	9	3	1	8
学習、文化	39	9	19	4	2	5
グループ・組織活動	35	10	15	5	1	4
経済、政治、社会	20	7	3	3		7
伝統、慣習、地域	18	1	10	4		3
儀礼、宗教	24	3	12	3	1	5
その他	19	5	7	5		2

注(1) 時間の領域、主題とも複数にコードした。

(2) 生活水準を主題とする掲載文はなかった。

二人旅が実現したからです。二男が一昨年秋、新居を新築。私はすぐお祝いに去了ましたが、夫はどうしても都合がつかず今日に至ったのと、私は生まれ在所を訪ねようとかねてから思っていたことが実現した旅になりました。

(中略)

決して晴天に恵まれたという旅ではなかったけれど霧の羊蹄山、霧の湖も快く胸に残り、富良野からの道南巡り、北海道半周して四日ぶりに家へ戻りました。

さあユリ根の摘らい、除草にまた一頑張りしなくちゃあ。

記名あり、66歳(北海道)、平成7年8月

4日

文例IV-b

しかしこの期にも、農家の主婦からの納得できない現状についての訴えはなされてい

る。

(略)

……嫁いで四年目くらいで義母が足を悪くしてから、義母に家のことや子供を見てもらい、義父と二人で畑に出ていて、いくら忙しい時でも、鍼灸院や病院まで義母を送迎していました。

義父や夫が昼休みの間に、義母を迎えに行く時もありました。義母が二度の入院の時、下の世話をはじめ、言葉では言い尽くせないほどの努力を重ねて、良い嫁になろうと尽くしてきたと思っています。けれど子供が慢性疾患になった時、義母が私をののしり、その言葉に私の心は一変してしまいました。

(中略)

……今までの義母中心の生活を、子供中心の生活に変えてほしいと願っても聞いてもらえません。老いた両親を外に出すわけにもいかず、

親子五人が小屋に手を加えた所で生活しています。(略)

記名あり(三重県), 平成7年10月17日

文例IV-c

最後の文例は、年金取得が開始することを報告している。

(略)

つい先日、長い間務めた女性部長を若い素晴らしい方に預けてひと安心で、少々脱力感を隠しきれないのが現在の心境です。

農家の主婦として四十年。姑に仕え、激しい労働に節くれだった大きな手と大きな体に残ったものは、ひざ関節の水。残らなかったのは現金だったことに気付くのでした。

(中略)

女性の農業者年金加入が進んでいて喜ばしいことです。私も四十六歳からJA生涯年金に加入していたのがたった一つの働きがいでした。

昨日、最後の掛け金を終えて肩の荷を下ろしました。来春からは一生涯、JAから年金を頂きます。若いうちから生活設計をするよう皆さんにも呼びかけています。

(略)

記名あり(熊本県), 平成8年6月28日

注(1) この時期の農村女性にとって重要な政策上の課題の一つが生活改善であったことは、よく知られている。市田(岩田)〔15〕によれば、I期は昭和23年に始まった生活改善普及事業の「展開期」に該当し、事業が日本の行政システムに「同化」していった時期である。具体的には、生活環境の整備や健康問題への対処が時期的な課題となった。

(2) 国際婦人年世界会議の勧告に基づいて設立したインストロー(International Research and Training Institute for the Advancement of Women)が、1983年に国際経済関係の中の女

性の役割についての研究成果を発表している。農業との関連では、インストロー編(高橋展子訳)〔17, 第5章及び第8章〕が参照される。

(3) 吉國〔54〕を参照。

(4) 昭和23年に農業改良助長法によって成立した生活改善課は、平成2年6月より婦人・生活課と改称されている。行革審との関連で生活改善不要論の骨子と生活改善の方向性についてまとめた大島〔38〕が参照される。

(5) 女性に関するビジョン研究会編〔20〕。

(6) 村松安子〔32〕。

(7) 市田(岩田)知子〔14〕。

4. 投稿文と反響文

家族に関する多くの掲載文の中で、本節では、反響文を伴ったいくつかの文群を取り上げ、検討する⁽¹⁾。

反響文を伴う文群は、家族に関連しているのみでなく、高い緊張状態におかれた女性(が自ら)の立場を疑問視すべきとする判断力やその解消策を希求する意向によって形成されている。もっとも、コラムに報告されている事態は暴力や殺人、窃盗、放火などの逸脱行為には及んでおらず、唯一文群5が法制度に触れるのみである⁽²⁾。

(1) 家族関係と嫁の地位——文群1, I期

最初の文群は、農家に嫁いで義両親と同居し農業に従事する中で嫁の地位について述べた、27歳の女性による投稿文(投稿文1, 昭和42年11月8日)とそれへの2つの反響文(反響文1・1, 42年11月27日と反響文1・2, 同年同日), 及び反響文の1つ(反響文1・2)にさらに寄せられた2つの反響文(反響文1・3, 42年12月15日と反響文1・4, 同年同日)により成る。

第1図に概略を示したように、投稿者は、結婚当初の嫁の立場がいかに納得のいかないものであったかを述べている。また家族の中

反響文 1・1

感想：不満。匿名に反対。
訴えの程度に疑問。
現状：授業参観への出席に
さえ理解の示せない
姑と夫。胃下垂で通
院。
記名あり，38歳，愛知県
昭和42年11月27日

投稿文 1

現状：結婚後4年。
ただ黙々とからだを動かしていれば，
それでいい嫁として認められる。自分
の理屈は通らず人の意見は通さなけれ
ばならない情けない立場。
仕事は慰勞されない。
今，自ら休憩をとり，新聞やテレビに
目を通すことができるようにはなって
いる。
意見：嫁は周囲の雰囲気敏感に日常生活を
送っている。張り合いのある生活をさ
せてほしい。
匿名希望，27歳，群馬県
昭和42年11月8日

反響文 1・2

現状：姑として時代に遅れないよう，何事
にも気を配っている。
昨秋嫁が出産し、育児・家事に専念。
自分は野良仕事を引き受けている。よ
い姑となるよう，心のこもった徳を積
み重ねたい。
留意点：相談されないことには口出しをしな
い。
うるさがられない，ものわりのよ
い姑になりたい。
匿名希望，52歳，長野県
昭和42年11月27日

反響文 1・4

診断：農村の嫁の劣位。
解決の道を求める必要。
意見：本人の努力が何よりも大切。
長いようで短い人生を，より
明るく楽しく，幸せに向かっ
て力強く生きたいものである。
記名あり，58歳，愛媛県
昭和42年12月15日

反響文 1・8

感想：心暖まる思い。
嫁のつらさも楽しみも結局はその家庭
のあり方によるのでは。
現状：今までは黙って働くことだけ。今は楽
しくやりたい。
提案：娘の自慢だけでなく嫁を慰勞する言葉
かけを。嫁の出産時には洗濯だけでも
手伝いを。
匿名希望，25歳，鹿児島県
昭和42年12月15日

第1図 家族関係と嫁の地位

で、嫁が気遣いや譲歩や我慢をすることが多いと訴え、「張り合いのある生活をさせてほしい」と述べている。これに対して、嫁の立場から、この投稿文が匿名によるものであり、訴えの程度や内容に疑問を抱くとする意見が提起されている（反響文1・1）。他の意見（反響文1・2）は、姑の立場からのものである。孫が誕生してから、嫁（＝育児・家事）と姑（＝農業）で仕事を分担していること、嫁（の仕事）に口出しをしないよう留意していることを報告している。

この後者の反響文に対して寄せられた反響文（反響文1・3）では、「心暖まる思い」がしたという感想が述べられている。また、嫁の労働と家の中の地位に関する劣悪な実態を諦観していながらも他の家族（義父母）に対して若干の提案がなされている。なお1つの反響文（反響文1・4）が、農村の嫁の劣位を解消する必要がある、改善のために嫁自身の努力がなお求められるとしている。

（2）三世代家族の家族関係——文群2，Ⅳ期——

Ⅳ期に、円滑な家族関係が実現されている実態とそのための心得—慰労し、長所を言うこと—を内容とする投稿文があった（投稿文2，平成8年1月16日）。これに対する反響文群について以下に検討する。

第2図に示されたように、円滑な家族関係を保持するための秘訣について記述した投稿文2に対して、二人の女性が、嫁の立場から反響文を寄せている。

1つは、「あきらめたり我慢」を強いられる現状について述べ（反響文2・1，8年1月27日）、もう1つは、家計費さえ把握できていない現状に気づき、生計を分離したい旨に言及している（反響文2・2，8年2月23日）。このうち後者に対して寄せられた反響文が3つあり、内容はそれぞれ次の通りである。すなわち、1つは専業農家の嫁であり、「いつも何

もおかしいという思い」をしながら定額の小遣いを受け取っていることを述べている。また、経済的な基盤がないためか夫婦単位の生活（の見通し）が得られないことへの不満を述べている（反響文2・3，8年3月4日）。またもう1つは（兼業農家で）結婚当初より夫の給料を手渡されていたが、やりくりも大変である旨を記述し、プラス発想を勧めている（反響文2・4，8年3月6日）。また別の反響文（反響文2・5，8年3月8日）では、夫から食費をもらっており、生活上の必要は流用により充たすこと、記帳がないため（手渡し分の）値上げ要求が容れられないが、気楽に考えている旨の記述がなされている。

新しい投稿文（投稿文2b，8年3月11日）が検討対象に加わる。すなわち、入院中の嫁が、期間中の姑の言動についてなお期待する水準には達しないと記述しながらもう一方で思慕の情を表出している。これと先の文（反響文2・3）に対して、52歳の女性が、嫁の時代を回顧して、「惨めだった過去が懐かしく思い出される」とし、子供が小学校へ入学するまでは、経済的にも時間的にも強く拘束されていたと述べている（反響文2・6，8年3月25日）。

（3）嫁と姑——文群3，Ⅳ期——

宮城県の41歳の女性から、姑の嫁いびりに悩まされている現状を訴える投稿がなされている（投稿文3，平成7年5月30日）。これへの反響文群が、第3図に示されたように構成されている。Ⅳ期の文例であるが、特に嫁の立場について情緒面が強調された文群として着目される。

すなわち、投稿文3——嫁を自分がされたことの仕返しの対象とするのではなく、自分ができなかったことを嫁が実現できるよう援助してほしいと訴えた——に対して、70歳の病気の女性が、家の中で嫁がつらく当たる現状について訴え、自らの役割遂行の実績を顧み

投稿文 2

現状：息子夫婦、孫夫婦、曾孫との同居。円滑な家族関係。
秘訣：ねぎらうこと。長所を言い合うこと。
記名あり，81歳，北海道，平成8年1月16日

反響文 2・1

感想：お嫁さんたちの居心地のよさ。
現状：男女同権の考えを持つために，家族の中ではみ出し者。両親の意に沿うよう，あきらめたり我慢。
お金は義父が持ち，義母も味方してくれず，夫は力が弱い。
匿名希望，29歳，平成8年1月27日

反響文 2・2

現状：非農家から専業農家へ婚入。習慣の違いにからあきらめたり，我慢。家計費を把握できない。「居候」のようである。
希望：生計を分離したい（が，夫は消極的）。
匿名希望，平成8年2月23日

反響文 2・3

現状：いつも何かおかしいという思い。
義父母中心で動く専業農家。
定額の小遣いが渡される。
問題点：夫婦単位の生活（の見通し）が得られない。
経済的な基盤のなさ。夫は消極的。
義父の「食わせてやっている」という意識。
匿名希望，平成8年3月4日

反響文 2・4

実態：兼業農家。夫が結婚時より給料を手渡してくれていたが，やりくりは大変だった。
提案：プラス発想をし，いつも前向きに生きていくこと。
記名あり，46歳，茨城県，平成8年3月6日

反響文 2・5

感想：生活費だけをもらっていて，うらやましい。我慢も修業のうちでは。
現状：夫が経済をやりくりしている。食費のみをもらい，流用など。
記帳もしておらない。今は多忙。
ペンネーム使用，37歳，平成8年3月8日

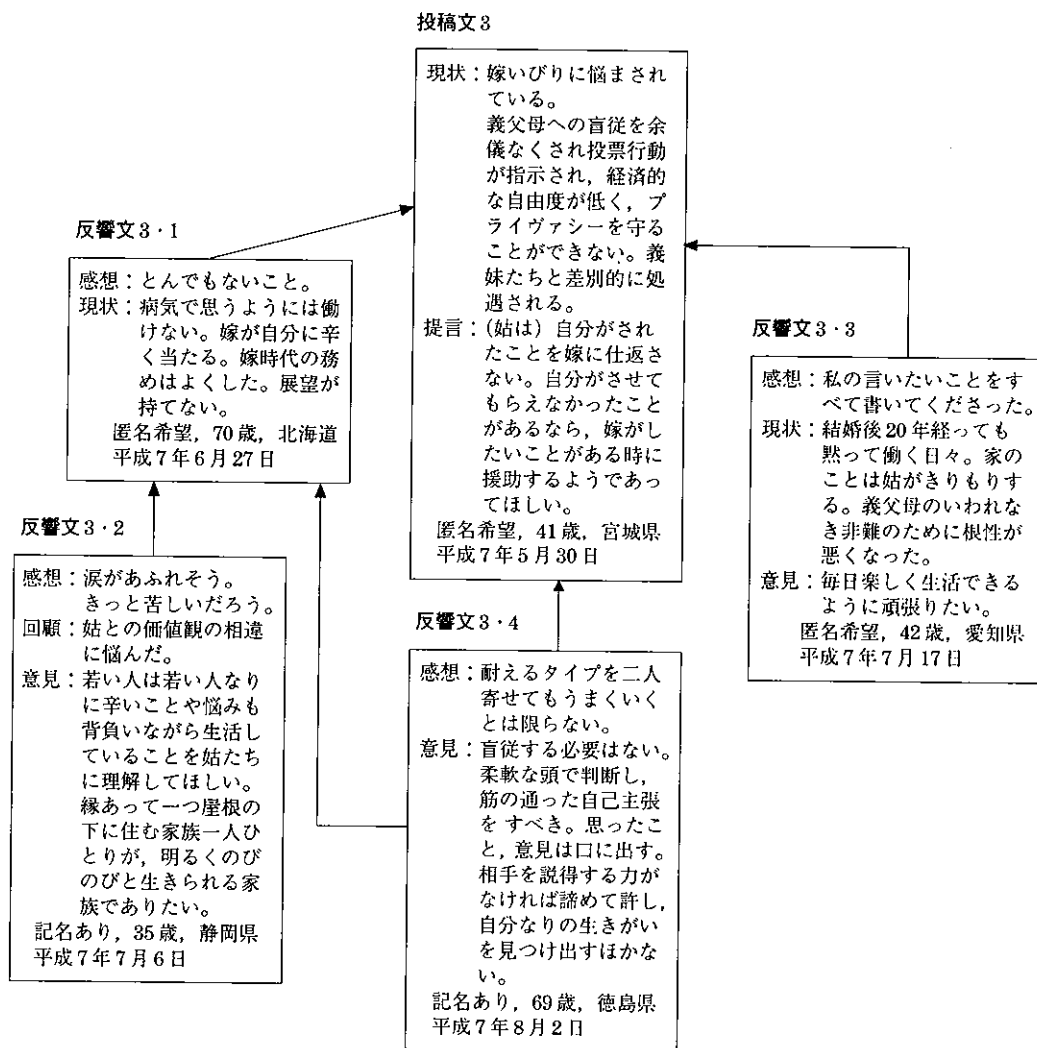
投稿文 2b

訴え：入院中に見舞いに来た姑の態度に不満。家が大事な姑。
匿名希望，平成8年3月11日

反響文 2・6

実態：会社勤めをやめ，農家に婚入。農作業に疲れ，長い間家族の物を買うにも姑にうかがいをたてる毎日だった。子供の小学校入学後，外出の機会や友人を得た。
励まし：惨めだった過去も懐かしい。もう少しの辛抱。
記名あり，52歳，茨城県，平成8年3月25日

第2図 三世代家族の家族関係



第3図 嫁 と 姑

ざるを得なくなっている現状を述べた（反響文3・1，7年6月27日）。静岡県の35歳の女性もまた，姑との価値観の違いと「何か言われる」ことで悪い方へ考えてしまいがちな自らの性向性について述べる。現状の基本的な解消の方向性の提示ともなる呼びかけが，「縁あって一つ屋根の下に住む家族一人ひとりが，明るくのびのびと生きられる家族でありたい。」という表現によってなされる（反響文3・2，7年7月6日）。愛知県の42歳の女

性もまた，義父母が都合の悪いことを自分のせいにすると訴えている（反響文3・3，7年7月17日）。

2つの文（投稿文3，反響文3・1）の投稿者に対して，徳島県の女性が，「耐えるタイプを二人寄せてもうまくいくとは限らない」という感想を示し，適切な判断と自己主張をすること，説得する力がなければ諦めることを勧めている（反響文3・4，7年8月2日）。実践的な解決がなされることの重要性が強調され

ている。

(4) 農外就労と家計——文群4, II期——

II期に遡り、複数の世代が同居する家族の中での情緒面の問題に関する投稿文に端を発した文群4(第4図を参照)について検討する。

発端となった投稿文(投稿文4, 昭和56年6月11日)では、長男が結婚して嫁が同居したが、長男が喜ぶので歓迎することになっており、勤務を始めた嫁が収入を家計費に繰り入れず、自分たち夫婦のおやつ代の節約をしながら若夫婦のために牛肉を購入している現状が述べられている。

これに対して、「気が重くなった」という感想が寄せられ、(そのような姑では)嫁が働きに出ようになるのは当然であり、姑は家事を手伝えよという意見が寄せられている(反響文4・1, 56年6月23日)。他の女性からも「やりきれない思い」がするという感想が寄せられ、解決すること、相互の立場を理解することが必要であると主張されている(反響文4・2, 同年同日。以下の反響文も全て同じ日に掲載されており、掲載月日を省略する)。より実態に近い立場から、勤務をもつ30歳の女性が反響文(反響文4・3)を寄せている。夫婦の給料の用途をルールづけてきた経験から、お嫁さんの給料を小遣いにするほど程度は当然視し、娘として接してはどうかという意見を提起したものである。家計費の現状を示し、食料品の購入や仕事の手伝いを依頼し、また応援してはどうかと提案する例もある(反響文4・4)。

もう少し異なる見地から家計費の譲渡を主張した反響文が2つある。1つは自らの経験から譲渡後の若夫婦の成長ぶりと老後の楽しさに言及し(反響文4・5)、もう1つは、食費は若夫婦が入って当然であるが、話し合いが効果をもちにくいのであれば家計費を譲渡すべきとしている(反響文4・6)。

家族(嫁夫婦)と話し合いをすることを提

案した反響文がさらに4つ寄せられている。これらは基本的に、最初の投稿文を書いた主婦に同情的な立場を示し、建設的な方向性を示している。すなわち、現状を「つらい」ものと認識し、話し合いを勧めた反響文4・7、姑にとって「はがゆく情けない」ことであるという認知を示し、話し合いを勧めた反響文4・8、若世代に訴えをすることを勧めた反響文4・9及び不満事をたくさん抱え持ったままにせず親としての立場を認識し話し合いをすることが大切であるとした反響文4・10である。

(5) 労働評価と法的措置——文群5, IV期——

同じく姑の立場にある主婦から、今度は介護を経ての労働評価の問題が取り上げられる。投稿文(投稿文5, 平成8年1月6日)に対して1つの反響文(反響文5・1, 同年1月18日)が寄せられ、それへの反響文(反響文5・2, 8年2月3日)と、続く反響文群(反響文5・3, 8年2月8日, 反響文5・4, 8年2月20日, 反響文5・5, 8年3月15日)が寄せられる。最後に、投稿文を書いた当の本人から、3か月弱の間に夫の計らいにより争いなく解決策が得られたと報告する文章(投稿文・再, 8年3月28日)が寄せられた。これらが文群5を構成する。(第5図を参照。)

最初の投稿文は、義父が死亡して法定相続期間も過ぎ、夫から嫁を養子縁組する話がきかれたことを書いている。報酬を得ることのない労働に、交替や休みが保障されないまま、展望も得にくいまま従事し続けることが当然視されがちな現状が改善され、女性の経営や社会への参加にとっての条件が整備されるとよいとする現状の認識を示している。

これに対して、姑の介護を終えた64歳の女性が、次世代の嫁の間で養子縁組が行われることが望ましいとする意見を提起している(反響文5・1, 8年1月18日)。また、男

反響文 4・10

反響文 4・1

感想：気が重くなった。
嫁が働きに出るようになるのも当然。
意見：姑は少々の家事を手伝ってもよいのでは。
自分の思うままの生活は許されない。
記名あり，38歳，茨城県
昭和56年6月23日

反響文 4・2

感想：やりきれない思い。努力はしているのか。
意見：同居によって摩擦が生じるのは当然。
話し合いの機会を設け，少しでも互いの立場を理解し合うことが必要。
記名あり，29歳，新潟県
昭和56年6月23日

反響文 4・3

現状：夫婦とも勤務し，夫の給料を両親に渡し，自分の給料を夫婦の小遣いに。支出が多く，余裕がない。
意見：嫁の給料ぐらいは小遣いにあげてもよいのでは。自分の娘として接してあげては。
匿名希望，30歳
昭和56年6月23日

反響文 4・4

意見：家族で話し合いをしてはどうか。食料品の購入を依頼し，ふだん応援をする代わりに農繁期には手伝いを依頼しては。
感想：疲れすぎと自由になるお金が少ないために取り越し苦労をしているのでは。
記名あり，30歳，香川県
昭和56年6月23日

反響文 4・5

提案：家族で話し合いをして財布を譲ってはどうか。
経験：嫁取りの翌年に財布を譲渡し，やがて自分は小遣いをもらった。仕事も家事のみになり，今では趣味を楽しんでいる。
記名あり，66歳，北海道
昭和56年6月23日

反響文 4・6

感想：人ごとではない。
意見：若夫婦が食費を入れるのは当然。あるいは，早めにか計をまかせの方がよい。
記名あり，44歳，千葉県
昭和56年6月23日

反響文 4・9

意見：話し合いを。
言わないと若い人には分らない。
記名あり，65歳，千葉県
昭和56年6月23日

反響文 4・8

感想：現代の典型的な嫁・姑の生き方。
意見：家族の話し合いが必要。姑は言いなりに応じず，嫁はある程度姑に見習うくらいの心構えを持ってほしい。
記名あり，45歳，千葉県
昭和56年6月23日

反響文 4・7

感想：つくづく難しいものだ。つらいことだ。
意見：打ちとけて話し合ってみてはいかがか。思いやりをもち，よりうまいおいのある家庭生活ができればよい。
記名あり，72歳，愛媛県
昭和56年6月23日

投稿文 4

訴え：長男の配偶者が就業を開始したが，収入は自分の小遣いと貯金になってしまう。おやつ代を節約し，若い世代の気に入るように牛肉をたびたび買っている現状が情けない。長男が嫁が来たと喜んでる姿を見ると，少しも文句は言えず，むしろ喜んでるように見せねばならない。
匿名，58歳
昭和56年6月11日

第4図 農外就労と家計

投稿文 5

現状：義父が急逝し、夫が嫁の養子縁組の可能性について語った。無償労働を解消する方法はないか。
女性農村アドバイザーとして、農村女性の地位向上をめざす。

匿名希望，福岡県，平成8年1月6日

反響文 5・1

感想：感動した。
意見：若い人たちの希望や自分自身の
老い先のためにも、嫁を養子縁
組することに賛成する。
嫁がひたすら耐えて、沈黙を守
ることが家庭の平和であるとい
う悲しい事態からは、もう卒業
してほしい。

匿名希望，64歳，北海道
平成8年1月18日

反響文 5・2

経験：夫と両親の養子縁組の後、婚姻
届を出した。
意見：男女の別なく養子縁組をするの
がよい。

記名あり，島根県
平成8年2月3日

反響文 5・3

感想：心強い。
現状：嫁は相続の際に義務ばかりで発言権もなく、
攻撃的のたとえられることも多い。実子たちの言
いがかりによる。
相続税支払いのためのストレスから死亡、兄
弟からの財産要求に応じるために農地を手放
し精神的に働けなくなってしまったなどの例。

記名あり，千葉県，平成8年2月8日

反響文 5・4

感想：全く同感。
現状：弟の横暴な要求。
農地解放で残ったわずかな土地を、姑とあと5
人で分けると、自分たちは生活していくことが
できない。長男の嫁には発言の場もない。

記名あり，68歳，山梨県，平成8年2月20日

反響文 5・5

経験：親の介護をしたから相続権がほしいという気持
ちがあるわけではないが、話の中に入りづらか
った。姉弟が相続放棄してくれた。
展望：息子の結婚時に、配偶者と夫が養子縁組をする
よう勧めることが楽しみ。

記名あり，50歳，岐阜県，平成8年3月15日

投稿文・再

現状：農家の嫁の多くが不満を抱いている。
夫が義母の承諾を得て弟妹と同額の分与をしてくれる、喜び。
やりがいが出てきて、一生懸命になれる。

匿名希望，平成8年3月28日

第5図 労働評価と法的措置

女を問わず養子縁組みを親から申し出るのがよいとする反響文（反響文5・2、2月3日）が続く。実際、夫の婚入時に婚姻届よりも先に両親が養子縁組みの届け出をしたことが報告されている。反響文の中には問題の多い実態を告発する性格を帯びた例もある。すなわち、農家の嫁は、相続時には義務ばかりで、発言権もなく攻撃的の的とされることが多いとする文（反響文5・3、8年2月8日）及びより個人的な経験を披露して、相続に際しての嫁の位置が不当である旨を訴えた文（反響文5・4、8年2月20日）である。後者について、寄稿者（68歳）は、既に贈与を受けている義弟が分割相続を要求しており、現在所有しているのが農地解放で残った土地にすぎないことを考え合わせると、とても納得がいかない旨を記している。また、これに対して、義父母を介護したけれども、相続に関しては話の中に入りづらかったことを報告する反響文（反響文5・5、8年3月15日）が寄せられている。この中では、夫が善処する腹案を示し、義姉弟が快く相続放棄した実態と、息子が結婚する折に、配偶者を養子縁組みするよう夫に勧めることを楽しみにしているとする展望が示されている。

なお、嫁の労働評価をめぐる最初の投稿をした主婦が、夫が反響文群に刺激されて、義母と折衝し義弟妹と同額の分与をすることにしてくれたと報告している。争いが回避でき、夫の対処を契機として以後の義弟妹との付き合いを気持ちよく行っていく決心ができたという感想が添えられている（投稿文・再、8年3月28日）⁽³⁾。

（6）家と慣習と女性——文群6、Ⅱ期——

出産をめぐる慣行及び婚家と嫁の実家の関係について述べた1つの投稿文（投稿文6、昭和55年7月7日）とこれに寄せられた6つの反響文より成る文群について検討する（第6図参照。）

投稿文6は、娘が遠隔地に嫁いでいる友人が遭遇した出来事について述べている。すなわち、友人が娘の出産に際して婚家へ事前の挨拶に出向くとどめていたところ、（婚家に）退院した娘が、義母に「お礼の言葉が足りぬ」と言われた旨を娘が電話で知らせてき、贈答行為に至った。投稿者は納得がいかず、里帰り出産の際に、婚家から実家にお礼をするのが妥当ではないかという意見を提起している。

これに対して千葉県的主婦が、里帰り出産に対して婚家からのお礼が贈られている地域的な慣習を報告し、相手方にお世話になった気持ちが表現されればよいのではないかという意見を添えている（反響文6・1、55年8月5日）。また60歳の主婦が、これとは異なる意見を提起している。すなわち、家族の一員である嫁は婚家で産後の静養をして当然であること、孫の誕生は婚家の歓びのはずであること、ただし嫁はお礼の気持ちを言葉に出すべきである、というものである（反響文6・2、55年8月5日）。婚家の「もらってやった」意識がトラブルの原因になってはいないかという指摘もなされている（反響文6・3、55年8月5日）。また、婚家との付き合いは経験から、「果てしない泥沼を歩くよう」であるという感想も寄せられている（反響文6・4、55年8月5日）。他に、地域の慣習を実家が婚家に奉仕する「精神」が優勢しているとみなし、実家からの贈答行為について見直し、婚家の口出しを慎むのがよいとする意見も提起されている（反響文6・5、55年8月5日）。最後の反響文は、婚家がお礼をほしがるのは論外であって、そのような考えをもつ限り、農家の長男の嫁は嫌われ、嫁の座の進歩もないだろうとしている（反響文6・6、55年8月5日）⁽⁴⁾⁽⁵⁾。

家族は、他の諸集団に比しても情緒性の強い集団として特徴づけられ得る。成員の入れ

反響文 6・1

現状：初産は実家でし、婚家
が何かのお礼をしてい
る。
意見：お礼も程度問題。互いの
気持ちが通じ合う程度の
やり取りが肝要ではない
か。
記名あり、44歳、千葉県
昭和55年8月5日

反響文 6・2

意見：産後の静養は婚家でして
当然。世話をしたからお
礼をとば考えられない。
お嫁さんもお礼の気持ち
を率直に言葉に出せば。
現状：6人の子供がおり、11人
の孫の世話や祝いをする。
記名あり、60歳、静岡県
昭和55年8月5日

反響文 6・3

感想：婚家で根底に「もらって
やった」意識があるため
にお礼の要求となったの
では。
記名あり、43歳、神奈川県
昭和55年8月5日

投稿文 6

疑問：友人の娘が出産し、婚家で静養していたところ、お礼の言葉が足りぬとの姑からの言を娘が伝えてきたら
しい。狼狽して贈答行為に及んだというが、釈然としない。里帰り出産をし、実家で静養し、婚家からお
礼をするべきではないか。
記名あり、群馬県、昭和55年7月7日

反響文 6・4

感想：改めて果てしない泥沼を
歩くような気がする。
経験：夫の親からみて働きの
ない嫁、気のきかない親で
あっても、夫婦協力、理
解しあって自分たちの能
力にみあった暮らし方
を守るべきであると2人で
確信して暮らしてきた。
記名あり、神奈川県
昭和55年8月5日

反響文 6・5

現状：嫁の一生を思えば、実家
の方が婚家に対して奉仕
する精神があるのが普通。
意見：改める必要があり、まし
て婚家がいろいろなこ
とは慎まなければならない。
記名あり、59歳、山口県
昭和55年8月5日

反響文 6・6

感想：大事な嫁や孫なら、婚家
で面倒を見るのは当然。
お礼の要求は論外で、そ
のような考えのために農
家の嫁は嫌われる。
現状：初産は実家で。気を遣い
ながら婚家で静養させて
もらうこともない。
記名あり、50歳、愛知県
昭和55年8月5日

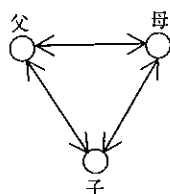
第6図 家と慣習と女性

替わりが自由に行われにくいために、ひとたび感情のゆきちがいが生じると、すさまじい葛藤状態が生じるとされる。望月 [31]⁽⁶⁾ が三者関係の情緒構造をモデル化して、第7図のように「統合型」(三人ともが愛着関係により結ばれる)、「ブリッジ型」(二つのパスは愛着関係によるが、他は無関心か反発関係である)、「スケープゴート型」(愛着関係は一つのみで、これを一つも持たない成員の存在によって他の成員の愛着関係が維持・強化される)及び「解体型」(愛着関係が存在せず情緒構造を潜在化させることで家族が存続してい

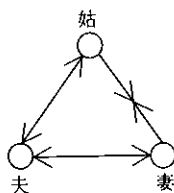
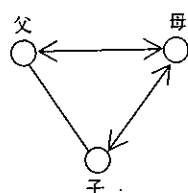
る)の4つの類型を提示しているが、複数世代が同居する直系家族の情緒構造についての同種の研究がなされてよいだろう。

因みに、世帯主宰権の移行に関する研究⁽⁷⁾が、山梨県の果樹作地帯の農家で26年間に「農業経営に関する権限指標と、代表権の一部としての「会合出席」などの移行に始まり、消費家計や資産管理などのうち、決定にかかわる諸指標が移行し、遅れて各種の名義にかかわる指標が移行」しており、これが他の地域での研究結果とも符合することを示している。このことと、家族の葛藤およびこれの解

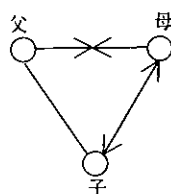
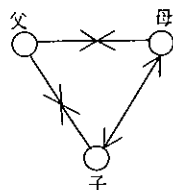
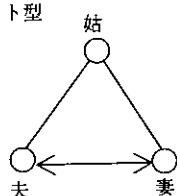
(1) 統合型



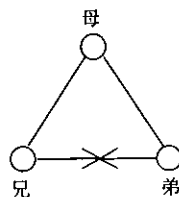
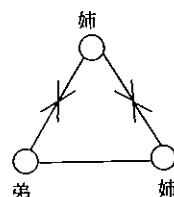
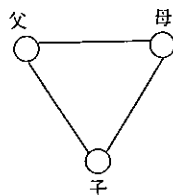
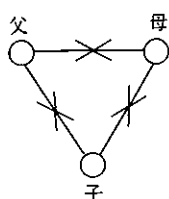
(2) ブリッジ型



(3) スケープゴート型



(4) 解体型



凡例： $\longleftrightarrow$ 愛着 $\longrightarrow$ 無関心 $\times$ 反発

第7図 三者関係の情緒構造

出所：望月〔31〕，107 ページ。

消といった課題との関連を追求することが可能だろうか。

要介護老人などを抱える家族を直接的な対象とする研究の中で、南山が着目している「役割ストレイン」の概念——「役割過重」，「役割葛藤」，「役割拘束」及び「役割の再構造化」に再次元化される——も、有用と考えられる⁽⁸⁾。

注(1) 反響文において家族を主題（の1つ）とする割合はさらに高く，Ⅰ～Ⅳ期でそれぞれ73.3%，80.0%，50.0%及び62.5%である。

(2) ダウリの額をめぐってインドの嫁に課せられる仕打ちについて告発したミース（奥田訳）〔25，第5章〕，ヴァルギーズ（鳥居訳）〔50〕などが，日本の農村とは文化的経済的背景を異にする社会の中で女性が置かれる位置を示しており，比較対照される。また，江戸時代から明治

- 期の離婚について、これが追い出し婚のみでなかったことを指摘した高木〔46〕も参照したい。
- (3) 富岡恵美子〔49〕が、時代に適合的な農家像を提示する中で、養子縁組や遺言についても触れながら、労働に報酬が支払われることや女性も個として尊重されることの重要性を指摘している。参照されたい。
- (4) 投稿文に紹介されている限りにおいて、姑の主張は「お礼の言葉」の不足である。婚家のあ

る地域の風習や、出産に際して里帰りをしないという娘さんの選択がどのような過程を経てなされたかについても、投稿者らの理解が示されてよい。また、介護の負担への考慮は、どの反響文の中でもなされていない。

- (5) なお、住井すゑほか〔44〕に、嫁から姑への11の、また姑から嫁への7つの問題提起が紹介されており、その主要な論点が附表2のようであることを補足する。

附表2 嫁から姑へ、姑から嫁へ

嫁 か ら 姑 へ	1. 労働の過酷さ 経営の転換についての意見が容れられない	<行商により多額の利潤をもたらす>
	2. 姑が悪口を言う 〔てきばきと仕事ができない〕	(嫁の悪口を他人や娘に言う)
	3. 姑の家事・育児に不満 <財布を譲渡してもらい、のびのびとやっている>	(孫の喜ぶものを何でも買う) (野菜まで買う)
	4. 姑の言動に不満 自由になる金が少ない	(雇用者に物を隠れて出す) (家の中のことを他人に聞かせて歩く)
	5. 姑のふるまいに嫌気 〔自分は農業に従事し、常に裏方か〕	(接客時に派手にふるまう)
	6. 夫と姑の仲を疑う	(夫が甘えると喜ぶ) (嫁である自分の不在を楽しみにする様子)
	7. 姑の不機嫌に困惑	(椎間板ヘルニアで入院し、以来不機嫌)
	8. 姑が自分を気に入らない	(偏執的に気が強くなる) (悪いことを近所に流布する)
	9. 姑を好きになれない	(衛生感が鈍い)(料理の工夫をしない) (戦後の開拓者に対して強い偏見を持つ)
	10. 姑の盗癖に苦悩	(舅の病弱と貧困)
	11. 姑の気の強さに耐え難い 〔自分の農業経験の不足〕	(気丈で仕事上手)
姑 か ら 嫁 へ	1. 嫁への不満を表出してしまう	(恋人気分が抜けない) (生活習慣がだらしない)
	2. 嫁に家のことをもっとしてほしい (食べ物好み合わない)	
	3. 食品加工の技術に関心を持ってほしい	<嫁と息子は働き者> <孫は嫁に似てか成績がよい> <今は現金収入を得ることが大切>
	4. 財布を譲渡して後悔 (仕事がしにくい)	(仕事の段取りがよくできない)
	5. 嫁に家事や農業をもっとしてほしい	(分担が少ない) (配慮する領域が狭い)
	6. 嫁(たち)の考え方に納得がいけない (育児を担当し、心労がつる)	(親から間借りをし、育児(・家事)のために対価を支払って親を雇っているような考え方)
	7. 嫁に来客へのお茶出しや世間話が理解されない	

資料：住井すゑほか〔44、第1章及び第2章〕より作成。

注、() は言い分の傍証、< > は言い分を控え目にさせる実態、[] は言い分を生成させる困難な実態を示す。

(6) 望月〔31〕,106~108 ページ。

(7) 石原邦雄〔18〕。

(8) 南山浩二〔26〕を参照。

5. 結 び

以上の検討の対象としたⅠ～Ⅳ期は、第34表に示されているように、日本で農家率が2割台から1割未満に減少し（昭和40年24.5%→平成7年7.8%）、農業従事者中に占める女性の割合が過半数を超えている時期である。（期間中の最大値は昭和55年の61.7%。）また、Ⅱ期までの間に兼業化が非常に進展してⅡ兼農家率が6割を超え（61.5%）、所得においてはⅠ期とⅡ期の間にこれが6倍以上に増加し（昭和40年約84万円→55年約559万円。期間中の最大値は、平成7年の約892万円）、Ⅱ期以降、兼業農家は専業農家の1.6倍から2倍以上の所得を得ている。また、粗収益においても、Ⅰ期とⅡ期の間でこれが4倍近くに増加していること（約63万円→約242万円）、また、同期間における野菜と畜産部門の粗収益の増加率が顕著である（それぞれ6.9倍及び4.2倍に増加している）ことが確認される。

しかし、検討した資料に関する限り、このような時期にあって農家の社会的な意義を主張したり、限られた存在としての女性農業者であることの自負を表出したり、農家が経済的に豊かになったことを喜びをもって報告する投稿は殆どみられなかった⁽¹⁾。投稿は殆ど全く個人的なものであり、基本的に現在あるいは現在までの個人がおかれた小さな環境の中での、あるいは個人がもつことのできる小さな射程の範囲内での、記述や問題提起であった。

これはしかし、そのまま農村女性の意識が閉そく的であるとかコラムが現代性を備えないものであり検討対象としての適切性において劣るということを意味するわけではない。

個人的な小環境への一人の女性としての適応状況を記した、次の文章などは、コラムのデータとしての有効性を主張するよい例である。

今から20年前、夫の突然の死で転職を余儀なくされ、加えて折からの減反農政で田畑にかけた情熱もバツサリ断ち切り、老人ホーム職員として頑張ってきました。

突然の環境急変に四苦八苦しながらも、ようやく外孫5人にも恵まれ、まづまづといったところです。それにつけても、農への意欲喪失は大きく田んぼは小作していただいているのですが、屋敷周りの畑の荒れようは、本当に今思えば恥ずかしい限りですが……。今年は小作契約の更新期を迎え、一大決心をして10アール弱の飯米を作ってみることにしました……。

記名あり（山形県）、平成3年3月15日

不満や小さな状況の中での閉そく性、また社会的変化への適応という課題を抱えた状態に着目した研究は、いくつもなされていよう。

至極代表的な例として、幸福な生活を実現したかのようなであったアメリカの郊外居住の主婦たちが、実際には、満たされない思いで生活していることをB. フリーダンは発見し、指摘した⁽²⁾。また、A. オークレーは、ロンドンに住む労働者階級と中流階級の主婦について、家事労働への満足度を主婦役割の受容度や夫の家事参加などとの関連で検討しながら、全体として、主婦たちは家事労働への不満を抱えていることを示している⁽³⁾。

日本の場合、（女性がもともと家業を営むために欠かせない存在であるとした上で）専業主婦に関して、安定的と思われていたけれども、女性解放運動の影響や高学歴化、また、職業への参加が進むなどの社会的変化によって動揺し、「ブルース状態」に投げ込まれてい

第34表 農家と女性に関するいくつかの指標

	昭和40年	55年	平成2年	7年
農家率(%)	24.5	13.7	9.4	7.8
女性就業者率(%)	49.3	46.0	47.1	47.3
農業従事者に占める女性の割合(%)	60.4	61.7	59.1	57.3
専業別農家割合(%)				
専業	21.5	13.4	15.9	16.1
Ⅰ兼	36.7	21.5	17.5	18.8
Ⅱ兼	41.8	65.1	66.6	65.1
平均農家所得				
農家平均(千円)	835.1	5,593.8	8,398.7	8,916.5
専業	693.6	2,810.9	3,323.6	5,647.3
Ⅰ兼	789.1	4,792.8	7,761.2	9,515.0
Ⅱ兼	792.2	4,899.4	7,330.3	9,962.4
農業粗収益(千円)	633.8	2,420.9	3,002.1	3,791.4
稲作	247.2	706.0	859.0	1,154.2
畜産	149.6	631.5	670.3	723.6
野菜	64.2	441.5	715.7	878.3

資料：『国勢調査』、『農林業センサス』及び『農家経済調査』より作成。

るという指摘を、目黒氏が行っている⁽⁴⁾。

本稿で分析の対象としたコラムは、日本の農村の女性たちが自ら捉えた家族や農業などに関する経験や意識や状況であった。家と女性に関する性格の異なる研究をみておくと、京都府に居住する2人の主婦のライフヒストリーが、1つは、世帯を創設した例として、1つは4代続く家を守る例として示されている⁽⁵⁾。ここで「家」は、「女性たちが行為する世界あるいは宇宙」として位置づけられており、「女性たちは家の中にいる限り、この世界のマスターである。」⁽⁶⁾

また、生活満足度とライフサイクルの関係に着目した Faver の研究は、結婚が満足感と共に捉えられているのは、家族に高い価値観をおくか仕事に低い価値観をおく女性の間でにすぎず、家族形成前、初期母親及び後期母親の3つのライフサイクルの段階での、仕事と家族の価値観や役割の間の分裂によって脅かされることを示している⁽⁷⁾。

「女の階段」に戻ろう。コラムのデータとしての特性ないし有用性が、次のように要約さ

れる。

すなわち、①日常生活の中で、現在の大小の関心事を投稿者が気楽にあるいは思い詰めて、自発的に報告したり訴えたものである、②自己の状況を外部化することが意図的無意図的になされた作用の結果である、③一定程度の量を扱ったりより社会的な水準に照らすことによって、また個別に検討することによって意識の動態や特徴を汲み取る素材として有効となる、などである⁽⁸⁾。

もう少し異なる性格の記録資料も、別途注目されてよい。例えば、岡山県の矢野賞・三徳賞の受賞者15人より受賞後10～15年後に農業経営の概況や展開過程を聞き取るなどしてまとめられた並木編著〔33〕⁽⁹⁾は、地域社会と家を基盤とし、堅実な経営を営む農業者の群像を描き出している。また、Chalasiński〔2〕⁽¹⁰⁾は、ポーランドにおける生活記録運動の伝統を構成する若い世代の農業者を含む運動の担い手と状況について説いており、興味深く参照される。この国から米国へ渡った移民が依頼に応じて書いたよく注目されてきた

作品がウラデック・ヴィスニエフスキの自伝であることは、繰り返すまでもないだろう⁽¹¹⁾。

いずれにしても、本稿では、検討の対象を1つの新聞の女性投稿欄に限定し、女性たちの中心的な関心事であった家族と農業について多く検討し、加えて最近では家族農業に従事し、地域や組織の一員である女性農業者に与えられた機会を利用しての、学習や余暇活動にも関心が多く向けられていることを示した⁽¹²⁾。

女性たちは、基本的には地域社会とでもなく慣習とでもなく、役職や地位や法制度とでもなく、自らの家族と強く結び付いており、家族を中心とする小さな閉そく的な状況の中に埋没することもままあった。しばしば不十分な条件の下で自ら生産労働に従事し、複数世代同居に伴うストレスを経験したり高齢の家族員の介護の義務までを抱える女性たちにとって、状況改善のための実効性ある条件整備が必要とされよう⁽¹³⁾⁽¹⁴⁾。

注(1) ラップ [39] が、米国の例について、女性農業者の職業的誇りや、技術習得の過程、農場生活を共にする子供たちへの積極的な働きかけなどについて紹介しており、参照される。また、北欧の先進的な女性農業者の研究例として、Haugen [13] を参照。

(2) Friedan (三浦訳) [9]。

(3) Oakley (佐藤・渡辺訳) [37]。

(4) 目黒 [24]。

(5) Hashimoto [12]。

(6) Hashimoto [12], 369 ページ。

(7) Faver [8]。

(8) Christensen *et al.* [7] は、異なる世代の女性が農家への婚入を経、どのようにして現在にたどりついたかについてインタビューに基づいてまとめた興味深い論文である。

(9) 並木正吉編著 [33] を参照。

(10) Chalasiński [2] を参照。

(11) Thomas and Znaniecki [48, Part IV] を参

照。翻訳が桜井訳 [41], [42] として一部発表されている。なお、トーマスとズナニエッキによる生活史の研究と H. ブルーマーによる評価を翻訳した桜井訳 [40] が併せて参照される。

(12) 農村女性の学習活動に関して、生涯学習政策との関連で論じた千葉 [3], [4] 及び [5] が参照される。

(13) III期の掲載文の中に、兼業農家の59歳の女性からの投稿文がある。赤字の経済を譲り受け、経営利潤が恒常的には得られない中で、家族の運営のために尽力してきたが、夫の協力的な態度が示されない旨の訴えがなされている。(平成2年9月18日、記名なし、山梨県。) 状況に埋没した例として参照される。

(14) 農山村の結婚難や国際結婚、また高齢化の問題を扱った光岡 [28], [29] が参考になる。

なお、本稿で言及することのできなかった問題で、農村女性について最近注目されたトピックとしては、女性起業が挙げられる。地域社会計画センター編 [6], 岩崎 [19], 宮城 [30] などが参照される。

〔引用文献〕

- [1] 明石光一郎「わが国の農村が持つ社会安定化機能——安全維持機能を中心として——」(『村落社会研究』第2巻第2号、平成8年3月)、43～53 ページ。
- [2] Chalasiński, J. "The Life Records of the Young Generation of Polish Peasants as a Manifestation of Contemporary Culture". In Bertaux, D. ed., *Biography and Society*, Sage Publications, 1981, pp. 119～132.
- [3] 千葉悦子「生活と労働をつなぐ女性の自立」(山田定市・鈴木俊正編著『地域づくりと自己教育活動』筑波書房、平成4年)、146～161 ページ。
- [4] 千葉悦子「生涯学習政策下の農村女性の自己教育活動」(『行政社会論集』第7巻第2・3号、平成7年2月)、156～184 ページ。
- [5] 千葉悦子「成人女性の学習課程分析の方法と視座」(『行政社会論集』第8巻第4号、平成8年3月)、200～227 ページ。
- [6] 地域社会計画センター編『農村の女性起業

- 家たち』(家の光協会, 平成6年)。
- [7] Christensen, P., Hockey, J. and James, A. "‘You have neither neighbours nor privacy’: ambiguities in the experience of emotional well-being of women in farming families". *The Sociological Review* Vol. 45, No. 4 (November 1997): pp. 621~644.
- [8] Faver, C.A. "Life Satisfaction and the Life-Cycle: The Effects of Values and Roles on Women's Well-Being". *Sociology and Social Research* Vol. 66, No. 4 (July 1982): pp. 435~452.
- [9] Friedan, B. *The Feminine Mystique*. Norton, 1963 (三浦富美子訳『新しい女性の創造』(大和書房, 昭和40年))。
- [10] 福武直『福武直著作集 第7巻』(東京大学出版会, 昭和51年)。
- [11] 福武直『福武直著作集 第8巻』(東京大学出版会, 昭和51年)。
- [12] Hashimoto, M. "IE, The World Women Make: Toward an Interpretive Sociology". *Journal of Family History* Vol. 11, No. 4 (October 1986): pp. 353~370.
- [13] Haugen, M.S. "Female Farmers in Norwegian Agriculture." *Sociologia Ruralis* Vol. 30, No. 2 (August 1990): pp. 197~209.
- [14] 市田(岩田)知子「生活改善普及事業に見るジェンダー観——成立期から現在まで——」(『村落社会研究』第31集, 平成7年), 111~134 ページ。
- [15] 市田(岩田)知子「生活改善普及事業の理念と展開」(『農業総合研究』第49巻第2号, 平成7年4月), 1~63 ページ。
- [16] 一条ふみ『永遠の農婦たち』(未来社, 昭和53年)。
- [17] INSTRAW-United Nations ed., *Women in the World Economy*. Oxford University Press, 1987 (国連インストロー編, 高橋展子訳『世界経済における女性』(東京書籍, 昭和62年))。
- [18] 石原邦雄「世帯主権の世代的移行とその変化」(森岡清美監修, 石原邦雄・佐竹洋人・堤マサエ・望月嵩著『家族社会学の展開』培風館, 平成5年), 145~162 ページ。
- [19] 岩崎由美子「農村における女性起業の意義と方向性」(『村落社会研究』第31集, 平成7年), 135~166 ページ。
- [20] 女性に関するビジョン研究会編『2001年に向けて——新しい農山漁村の女性——』(創造書房, 平成4年)。
- [21] 草野比佐男『村の女は眠れない』(光和堂, 昭和49年)。
- [22] 毎日新聞社『あぜ道の人たち』(昭和53年)。
- [23] 丸岡秀子『日本農村婦人問題』(ドメス出版, 昭和55年)。
- [24] 目黒依子『主婦ブルース』(筑摩書房, 昭和55年)。
- [25] Mies, M. *Patriarchy and Accumulation on a World Scale*, Zed Books, 1986 (奥田暁子訳『国際分業と女性』(日本経済評論社, 平成9年))。
- [26] 南山浩二「家族ケアとストレス」(『家族社会学研究』第9号, 平成9年7月), 77~90 ページ。
- [27] 見田宗介『現代日本の精神構造』(弘文社, 昭和40年)。
- [28] 光岡浩二『日本農村の結婚問題』(時潮社, 昭和64年)。
- [29] 光岡浩二『農村家族の結婚難と高齢者問題』(ミネルヴァ書房, 平成8年)。
- [30] 宮城道子『農村ではじめる女性起業』(農山漁村女性・生活活動支援協会, 平成8年)。
- [31] 望月嵩「家族の情緒構造」(森岡清美・望月嵩共著『新しい家族社会学』培風館, 昭和58年), 105~114 ページ。
- [32] 村松安子「『開発と女性(WID)』領域における女性の役割観の変遷」(原ひろ子ほか編『ジェンダー』新世社, 平成6年), 338~351 ページ。
- [33] 並木正吉編著『恒心会員の歩み』(国勢社, 昭和45年)。
- [34] 並木正吉編『野良着をぬぐ主婦たち』(家の光協会, 昭和46年)。
- [35] 日本農業新聞『女の階段』(昭和54年)。
- [36] 日本農業新聞『励まし励まされて20年』

- (昭和62年)。
- [37] Oakley, A., *The Sociology of Housework*, Martin Robertson & Company, 1974 (佐藤和枝, 渡辺潤訳『家事の社会学』〔松籟社, 昭和55年〕)。
- [38] 大島紋子「今, 生活改良普及員に何が求められているか」(『技術と普及』第26巻第7号, 平成元年7月), 36~40 ページ。
- [39] M.A. ラップ (石川英夫編訳)『21世紀へ歩む婦人たち——アメリカの農村婦人はいま——』(楽書房, 昭和59年)。
- [40] W.I. トーマス, F. ズナニエツキ (桜井厚訳)『生活史の社会学』(御茶の水書房, 昭和58年)。
- [41] W.I. トーマス, F. ズナニエツキ (桜井厚訳)「あるポーランド人移民の生活記録(1)」(『中央大学社会学部紀要』第8巻第1号, 平成5年), 25~45 ページ。
- [42] W.I. トーマス, F. ズナニエツキ (桜井厚訳)「あるポーランド人移民の生活記録(2)」(『中央大学社会学部紀要』第8巻第2号, 平成5年), 25~45 ページ。
- [43] 千屋農協婦人部『農の女』(昭和62年)。
- [44] 住井すゑ・丸岡秀子・玉井袈裟男『嫁と姑』(農山漁村文化協会, 昭和58年)。
- [45] 須永芳顕「経済基調の変化と農家就業構造の変化」(石黒重明・川口諦編『日本農業の構造と展開方向』農業総合研究所, 昭和59年), 127~184 ページ。
- [46] 高木侃『三くだり半』(平凡社, 昭和62年)。
- [47] 田代洋一「日本の兼業農家問題」(松浦利明・是永東彦編『先進国農業の兼業問題』農業総合研究所, 昭和59年), 165~250 ページ。
- [48] Thomas, W.I., and Znaniecki, F. *The Polish Peasant in Europe and America* Vol. II, Alfred A Knopf, Inc., 1920.
- [49] 富岡恵美子「いま, 変革の時」(『自然の中で主役を演じる農山漁村の女性たち』農林水産時報, 平成7年), 569~576 ページ。
- [50] Verhese, J. *Her Gold And Her Body*, Vikas Publishing House Pvt. Ltd., 1980 (鳥居千代香訳『焼かれる花嫁』〔三一書房, 昭和59年〕)。
- [51] Wimschneider, A. *Herbstmilch*, Piper, 1989.
- [52] 矢部光保「山村留学と農山村の自然環境保全に関するアンケート調査」(『農業・農村の多面的機能』農業総合研究所), 127~164 ページ。
- [53] 矢部光保「コンティンジェント評価法による農山村の自然環境保全価値に関する経済評価」(『農業・農村の多面的機能』農業総合研究所), 165~178 ページ。
- [54] 吉國隆「農山漁村婦人の役割と農山漁村婦人の日」(『生活研究』第20巻第1号, 昭和63年12月), 2~5 ページ。

〔謝辞〕

草稿の全体に目を通して, 懇切な助言をくださった須永芳顕資料部長に感謝する。勿論, 本稿の内容に関する責任の全ては筆者が負うものである。